
淀川水系 西大阪ブロック

旧淀川(大川、堂島川、安治川)、土佐堀川、木津川、尻無川、
東横堀川、道頓堀川、住吉川、正蓮寺川、六軒家川

淀川水系 神崎川下流ブロック

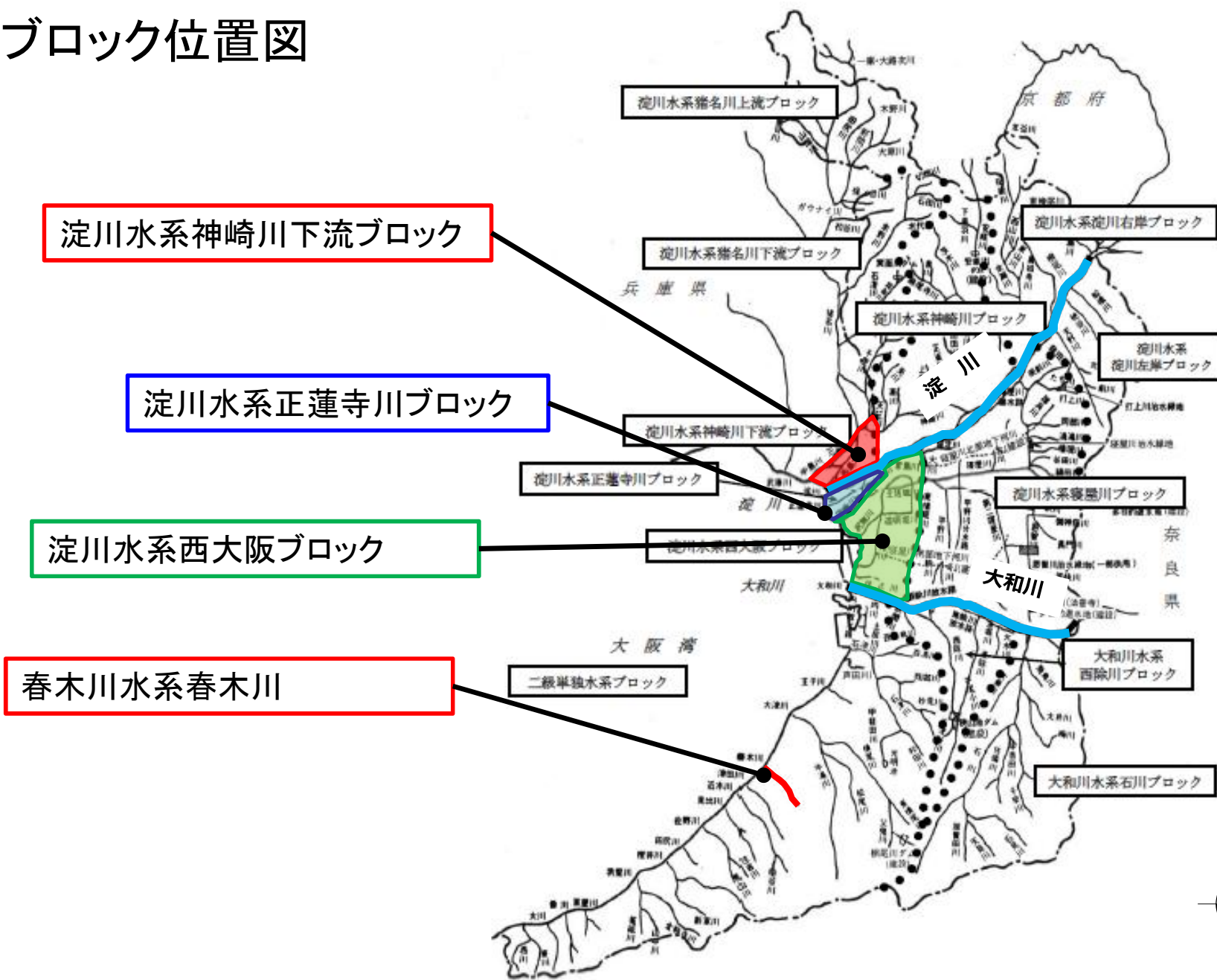
神崎川・中島川・左門殿川、西島川

春木川水系 春木川

流域の概要について

1.1 流域の現状

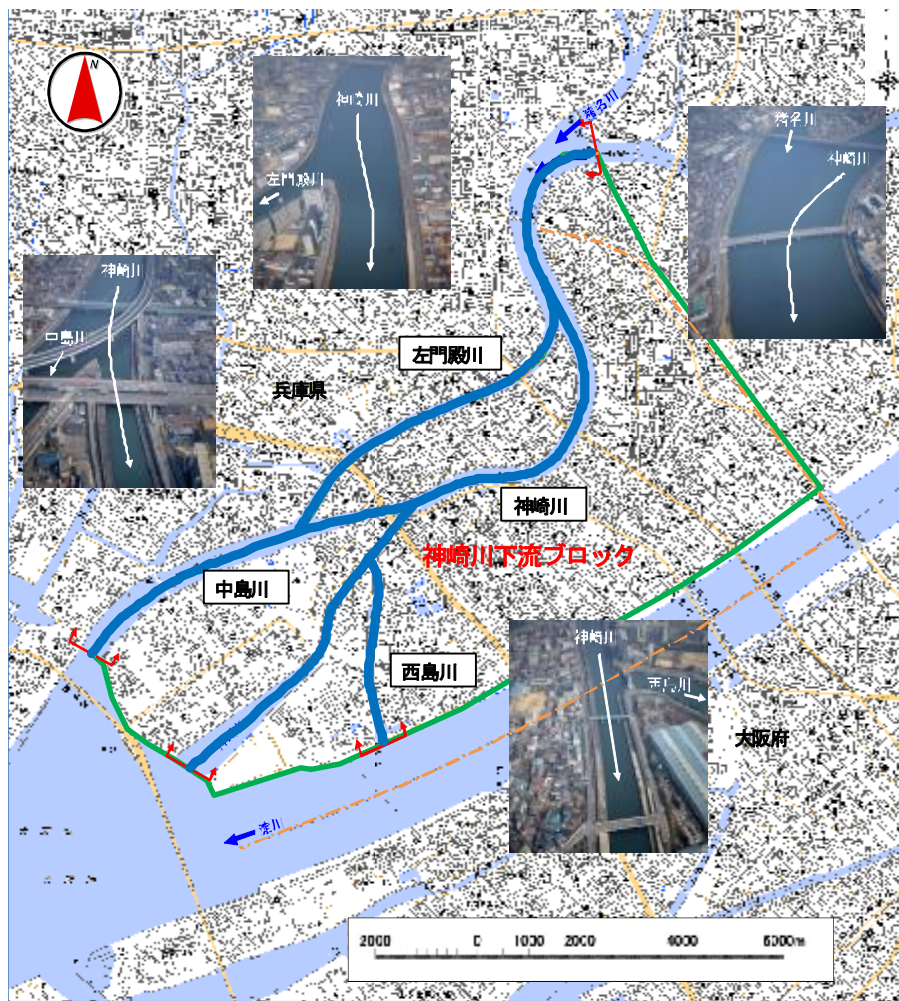
■ブロック位置図



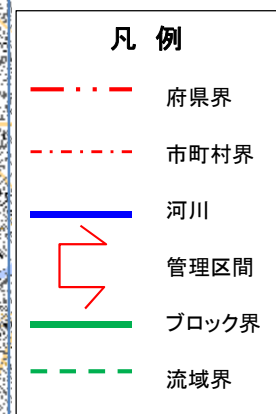
1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(1) ブロックの概要（神崎川下流ブロック）

- ・神崎川下流ブロックは、神崎川(猪名川と合流する地点から左門殿川、中島川、西島川を分派して大阪湾に注ぐ約7.1km区間)、左門殿川、中島川、西島川の4河川からなる。
- ・神崎川の流域面積は、猪名川合流後で591.1km²である。



水系名	流域面積 (k m ²)	指定区間延 長 (k m)
神崎川	591.1	7.10 (ブロック 内)
中島川	---	2.82
左門殿川	---	2.57
西島川	---	1.49
合計	---	13.98



神崎川下流ブロック流域図

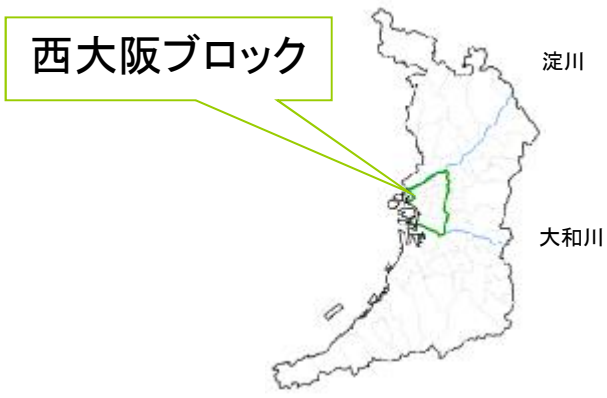
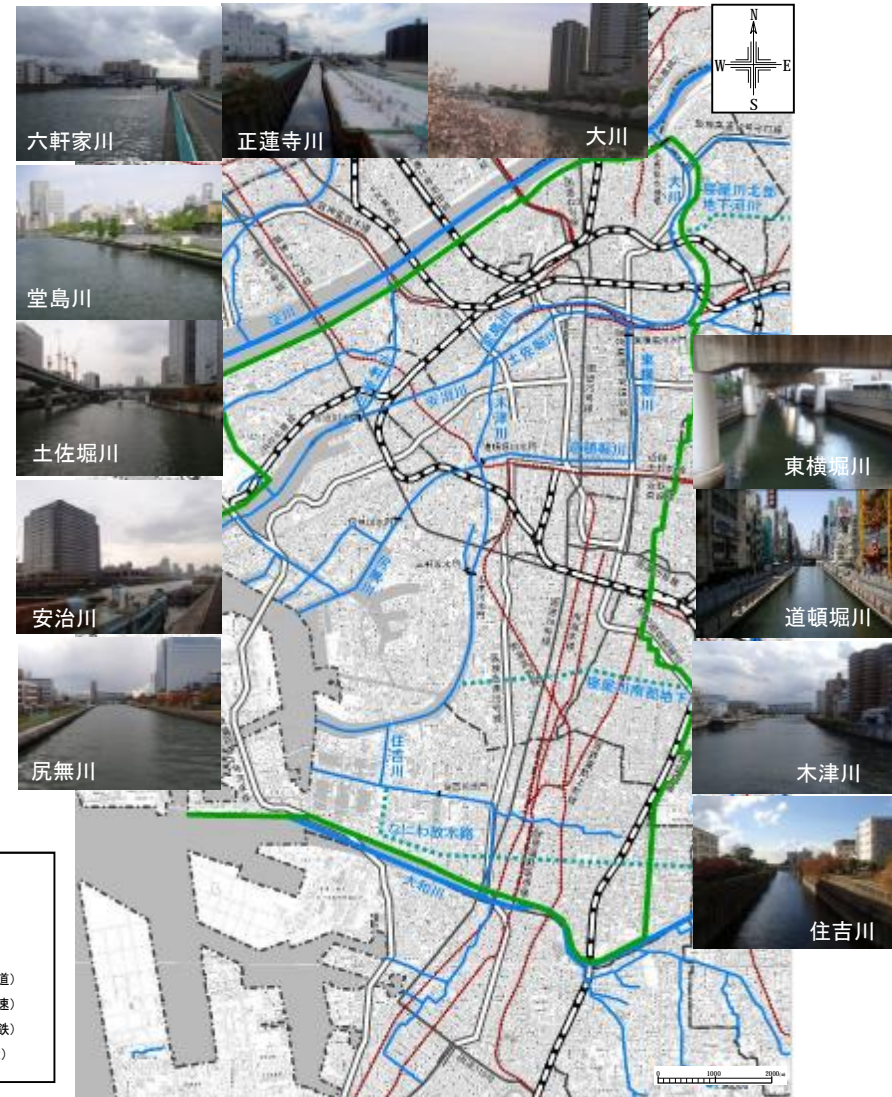
1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(1) ブロックの概要（西大阪ブロック）

- 西大阪ブロックは、旧淀川（大川、堂島川、安治川）、土佐堀川、木津川、尻無川、東横堀川、道頓堀川、住吉川および正蓮寺川、六軒家川の9河川からなる。
- 総流域面積298.8km²（寝屋川流域含む）、指定区間延長43.2kmである。

河川延長・流域面積

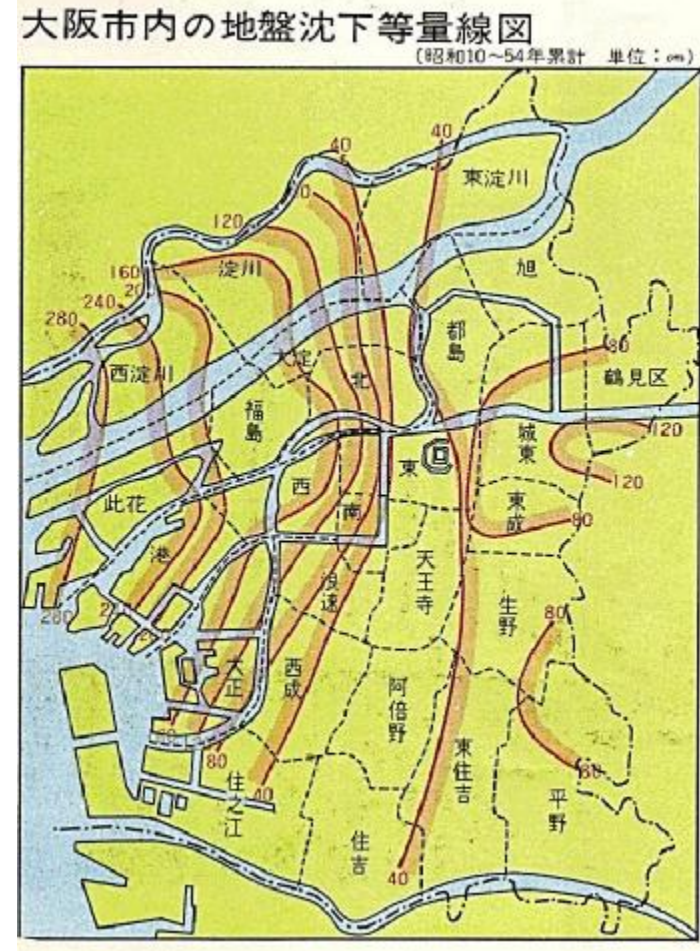
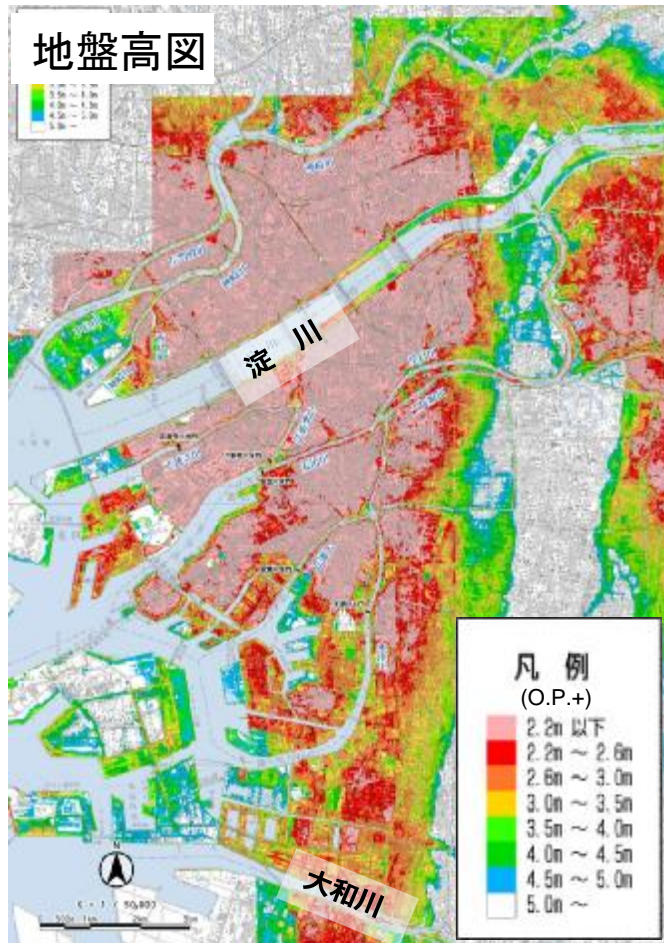
河川名	流域面積 (km ²)	指定区間延長 (km)	備考
旧淀川 (大川・堂島川・安治川)	288.0	13.830	流域面積に 寝屋川流域 含む
土佐堀川		2.450	
木津川		8.800	
尻無川		4.100	
東横堀川		2.175	
道頓堀川		2.745	
住吉川	3.050		
正蓮寺川	10.8	4.600	
六軒家川		1.450	
合計	298.8	43.200	



1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川ブロック）

(2) 地形特性

- 神崎川下流ブロック、西大阪ブロックは、大阪平野の河口部に位置している。
- 上町台地を除いては低地帯で海拔ゼロメートル以下の地帯も存在する。
- 地質は、淀川水系、大和川水系の河川によって堆積された沖積層で覆われている。
- 地下水採取により、昭和初期から40年頃にかけて激しい地盤沈下に見舞われた。

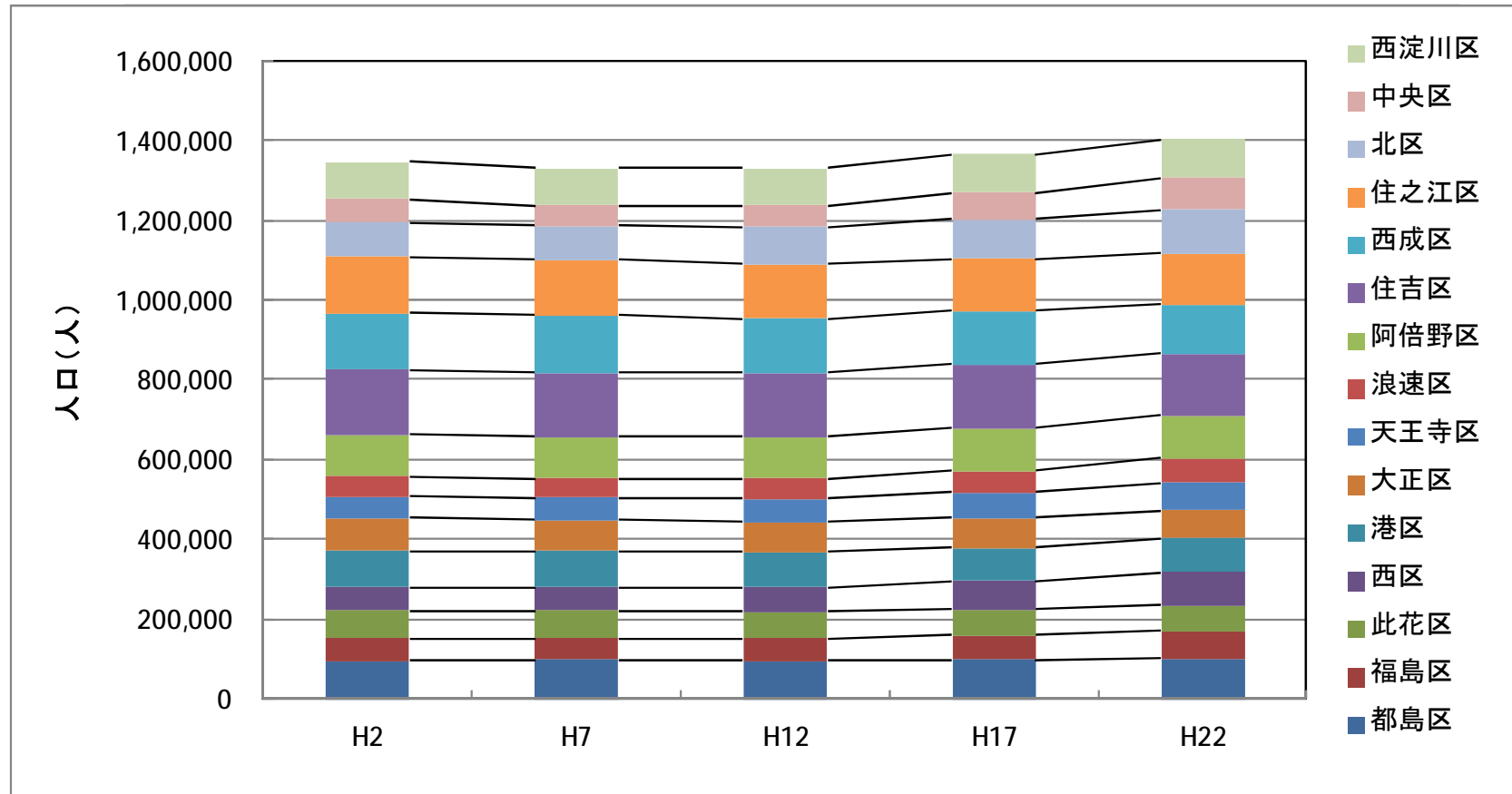


出典 大阪高潮対策事業概要 大阪府

1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川ブロック）

(3) 社会特性(人口)

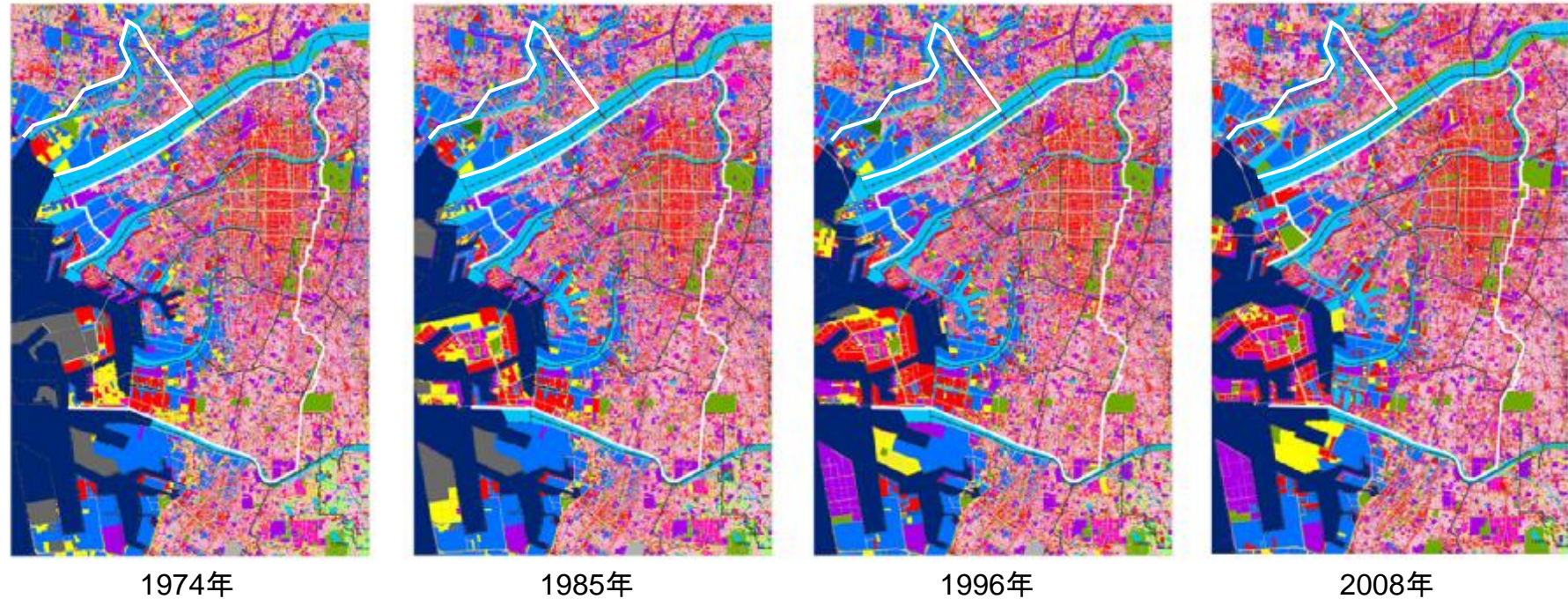
大阪市域の当該2ブロックの人口は、増加傾向にある。



資料: 国勢調査

1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川ブロック）

(4) 土地利用



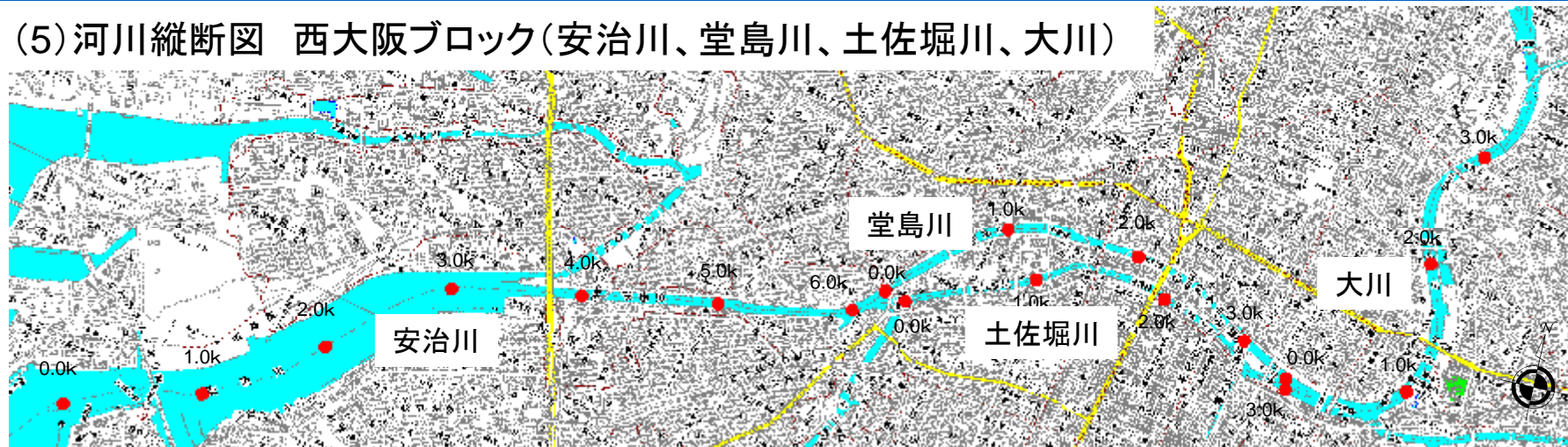
資料：電子国土基本図(地図情報)国土地理院

- 高度に市街化が進んでおり、経年的には臨海部で変化がみられるほかは大きな変化はない。
- 他の都市に比べて水面が多いことが特徴である。

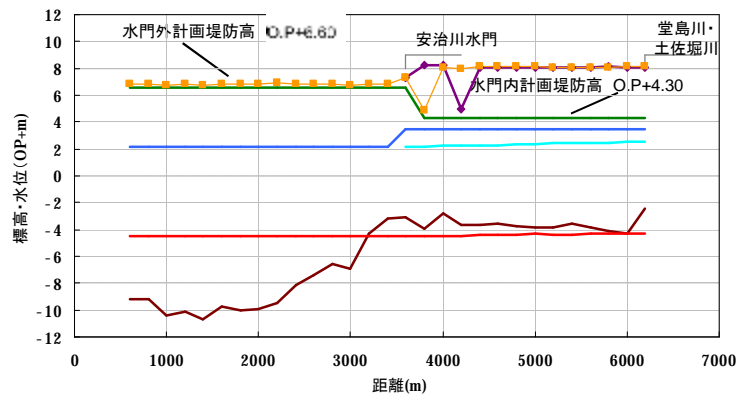


1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

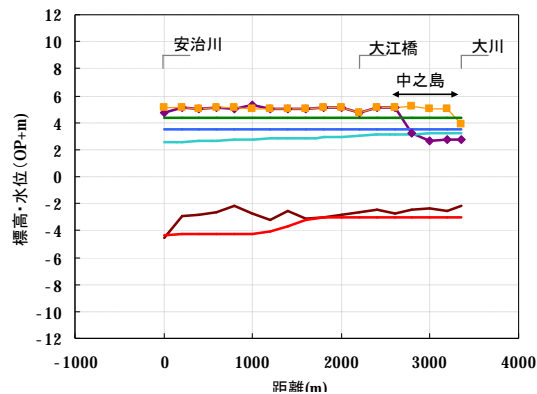
(5) 河川縦断図 西大阪ブロック(安治川、堂島川、土佐堀川、大川)



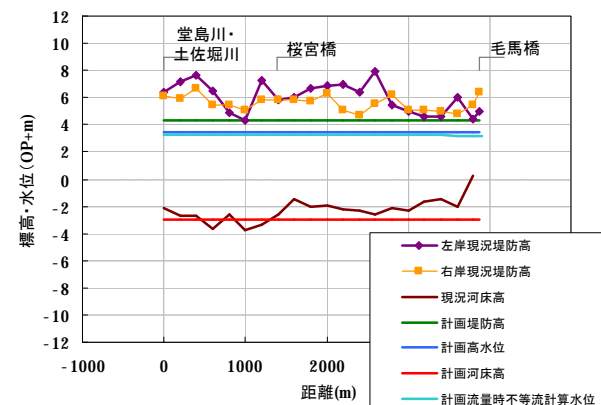
安治川



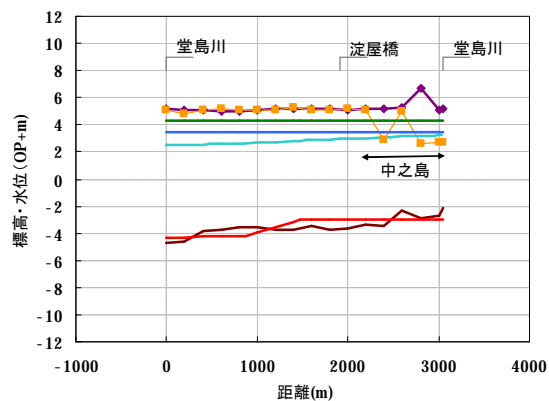
堂島川



大川



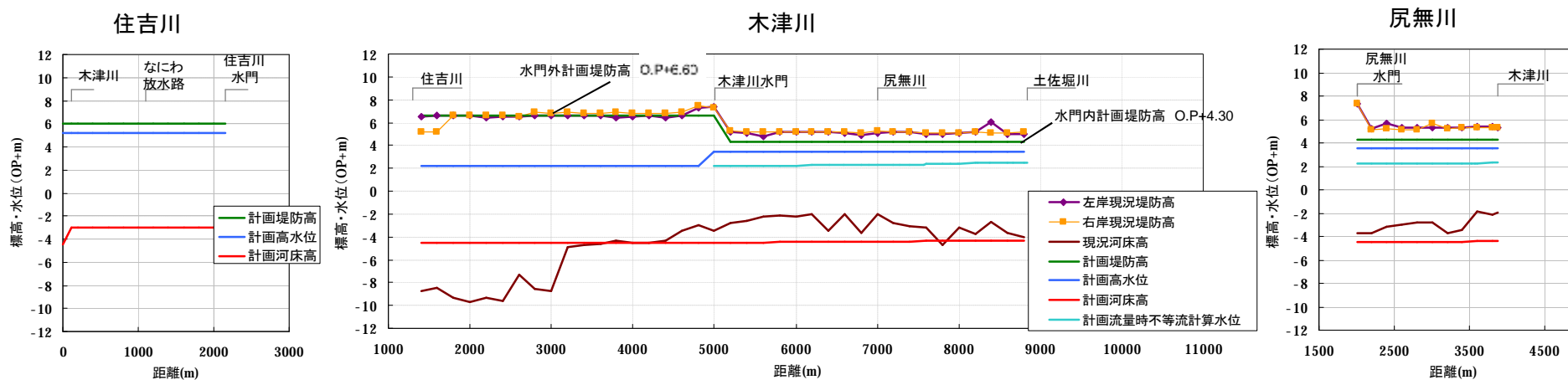
土佐堀川



- 左岸現況堤防高
- 右岸現況堤防高
- ▲— 現況河床高
- ◇— 計画堤防高
- 計画高水位
- 計画河床高
- △— 計画流量時不等流計算水位

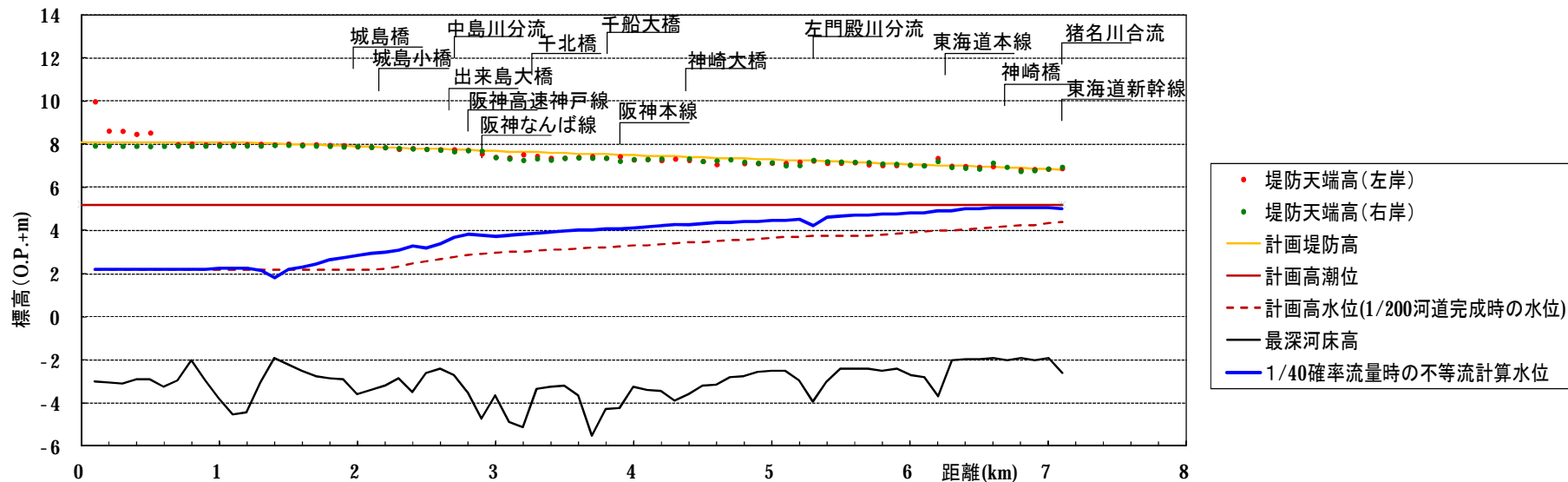
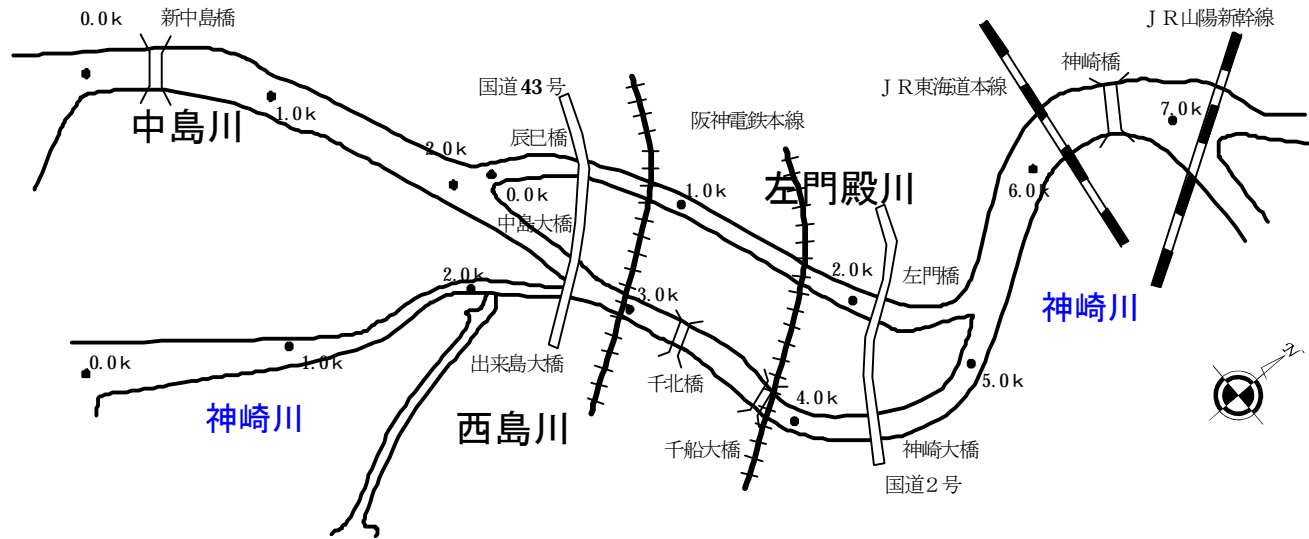
1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(5) 河川縦断図 西大阪ブロック(木津川、尻無川、住吉川)



1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

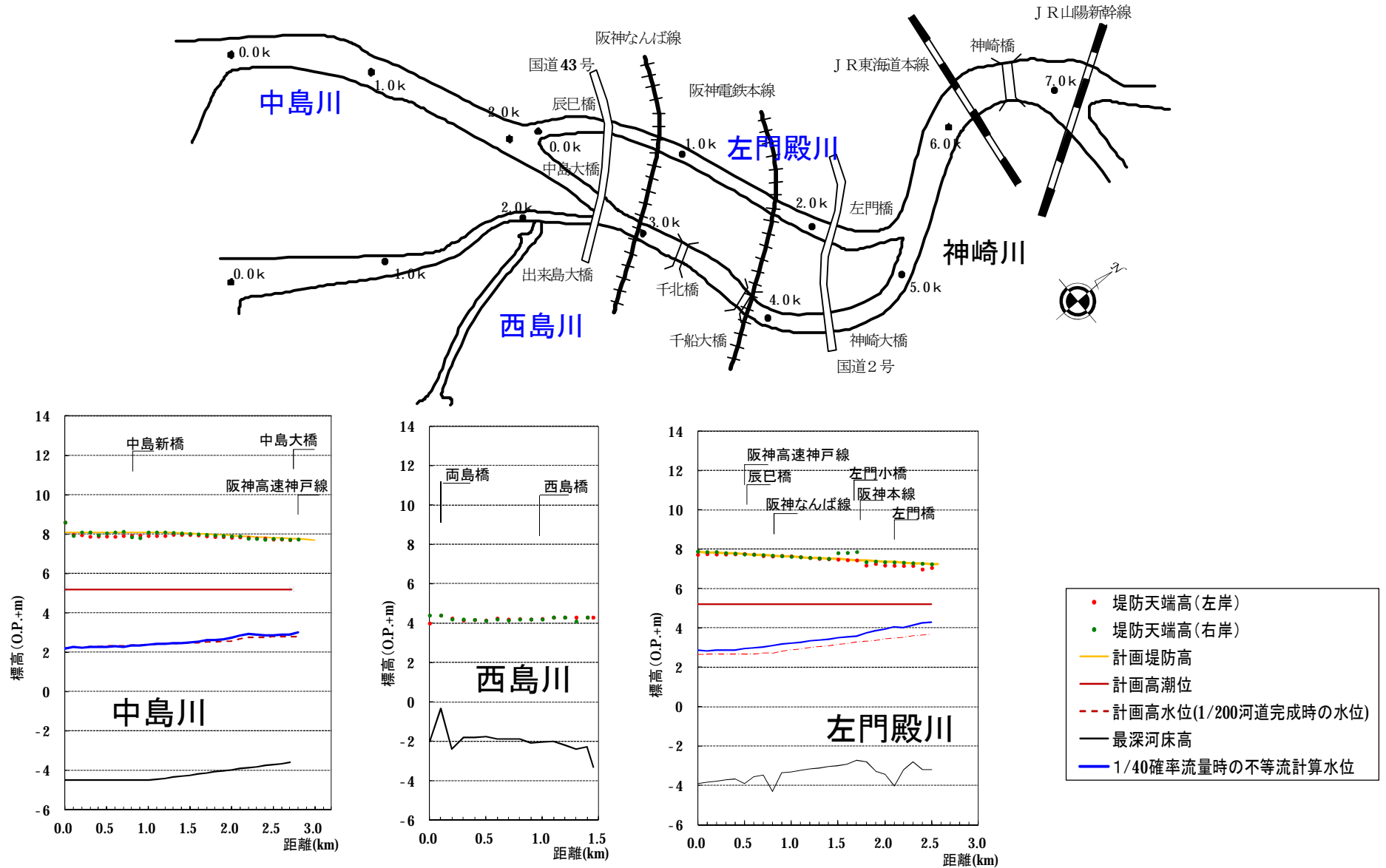
(5)河川縦断図 神崎川下流ブロック(神崎川)



河川縦断及び不等流計算水位

1.1 流域の現状（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(5)河川縦断図 神崎川下流ブロック(中島川、左門殿川、西島川)



河川縦断及び不等流計算水位(1/40確率流量)

1.2 流域の現状（春木川）

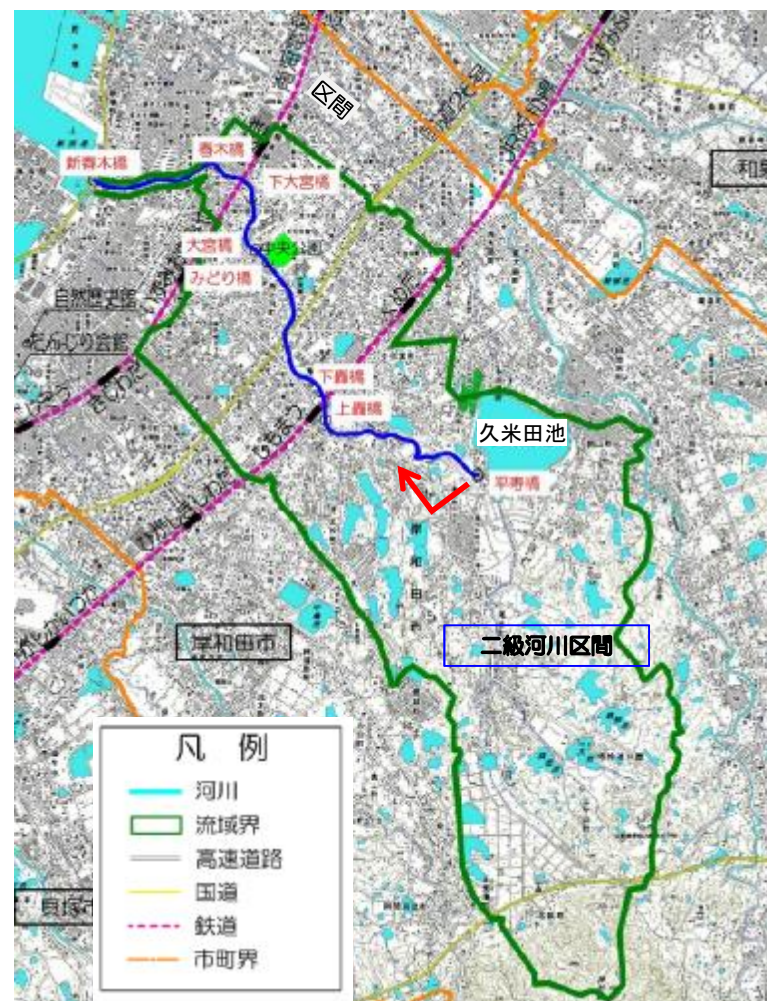
(1) ブロックの概要（春木川）

- ・春木川は、岸和田市の神於山に源を発し、山間部を北方向に流下し、尾生町付近で北西方向に曲流し大阪湾に注ぐ二級河川である。
- ・流域面積は14.4km²、流路延長は約10.0km(二級河川指定区間5.7km)。
- ・全流域が岸和田市に包括されている。

水系名	河川名	河川延長	流域面積
春木川	春木川	5.7km	14.4km ²



春木川水系位置図

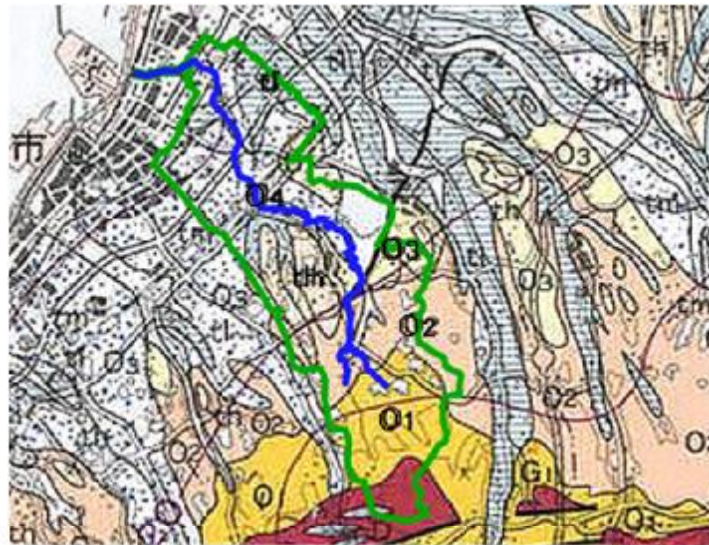


春木川流域

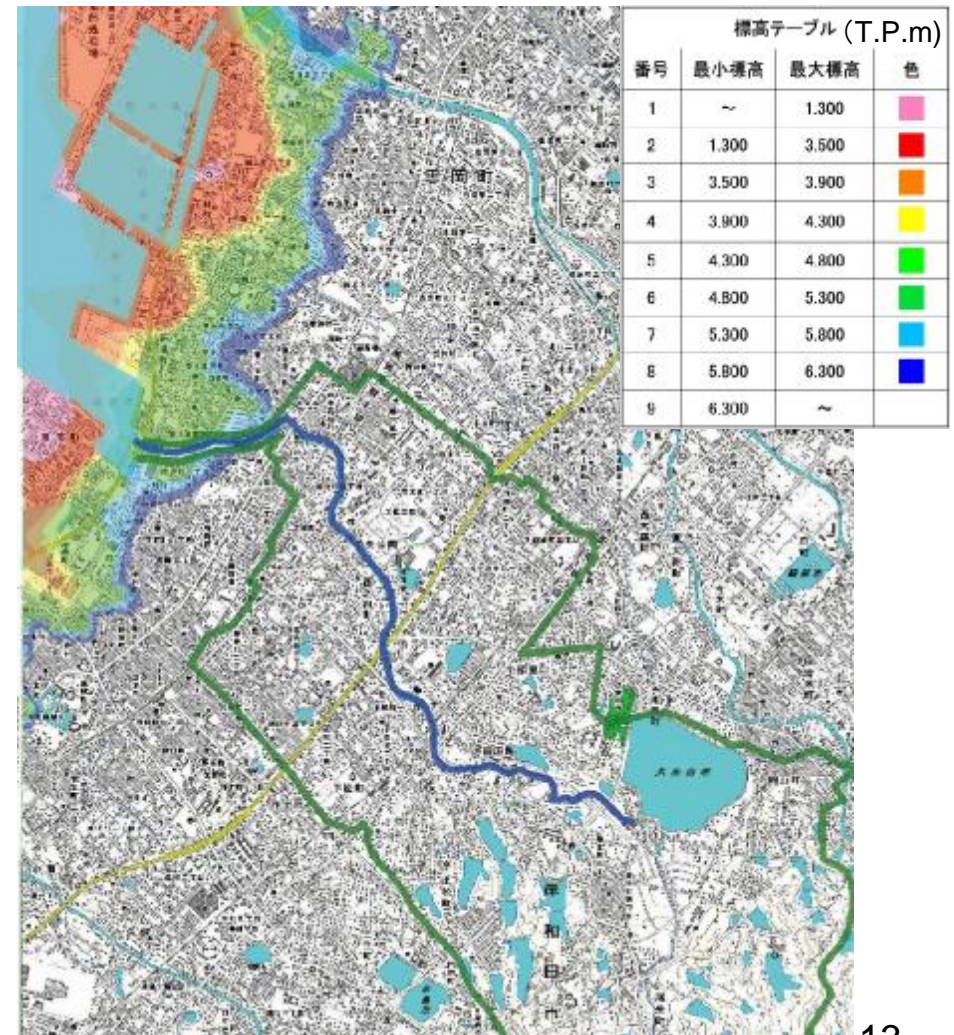
1.2 流域の現状（春木川）

(2) 地形特性

- 流域の地形は、上流は和泉葛城(いずみかつらぎ)連山(れんざん)の前山である神於山(こうのやま)を源流とする山地で、その下流に泉南台地が緩やかに広がり、大阪湾沿岸の平地に続いている。標高は流域界を成す神於山が300m程度、丘陵地が50m～100m、平地は5m～50mとなっている。
- 地質は、上流部が大阪層群、下流部が沖積層から構成されている。



流域の地質図 出典:「地質図(1999)」
(通商産業省地質調査所)



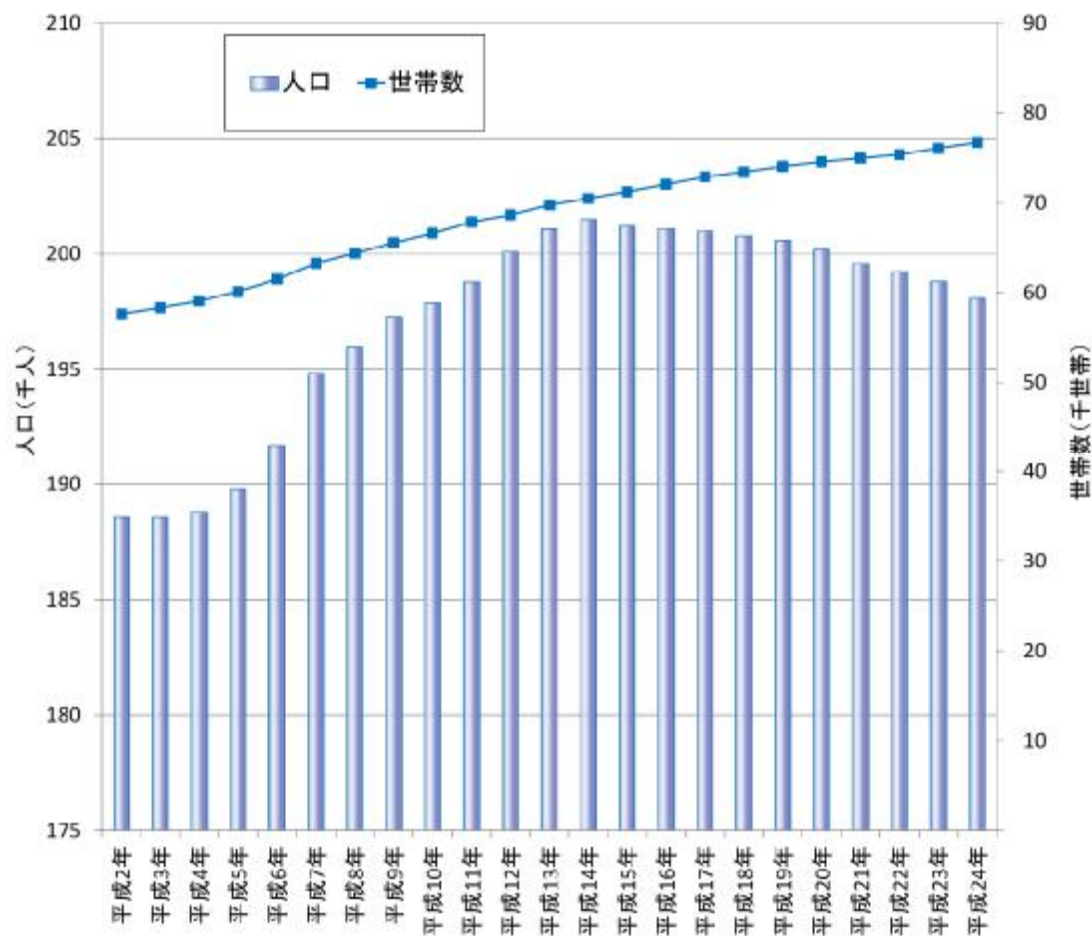
地盤高図

1.2 流域の現状（春木川）

(3) 社会特性(人口)

- ・岸和田市の人口は、平成24年度末時点で約19.8万人である。平成7年頃から、関西国際空港や大阪湾ベイエリアの開発に伴う住宅開発の影響もあって増加傾向であったが、現在の人口はやや減少傾向となっている。

年次	世帯数	人 口		
		総数	男	女
平成2年	57,635	188,563	91,432	97,131
平成3年	58,321	188,567	91,455	97,112
平成4年	59,081	188,758	91,569	97,189
平成5年	60,117	189,760	92,076	97,684
平成6年	61,476	191,689	93,034	98,655
平成7年	63,258	194,818	94,584	100,234
平成8年	64,362	195,968	95,055	100,913
平成9年	65,553	197,276	95,661	101,615
平成10年	66,585	197,879	95,874	102,005
平成11年	67,874	198,788	96,294	102,494
平成12年	68,625	200,104	96,949	103,155
平成13年	69,739	201,089	97,253	103,836
平成14年	70,475	201,500	97,304	104,196
平成15年	71,221	201,212	97,056	104,156
平成16年	72,029	201,096	96,832	104,264
平成17年	72,856	201,000	96,866	104,134
平成18年	73,433	200,777	96,644	104,133
平成19年	74,040	200,591	96,449	104,142
平成20年	74,536	200,197	96,244	103,953
平成21年	74,956	199,592	95,911	103,681
平成22年	75,353	199,234	95,730	103,504
平成23年	76,073	198,815	95,402	103,413
平成24年	76,706	198,086	95,020	103,066



岸和田市の人口の推移

出典:岸和田市HP

1.2 流域の現状（春木川）

(4) 土地利用

- ・岸和田市の36.1%がDID地区である。
- ・岸和田市の土地利用は平成25年度では、宅地が約34%、農地(田及び畑)約23%、山林が約10%となっている。
- ・用途地域面積は、市街化区域が約40%、市街化調整区域が約60%である。

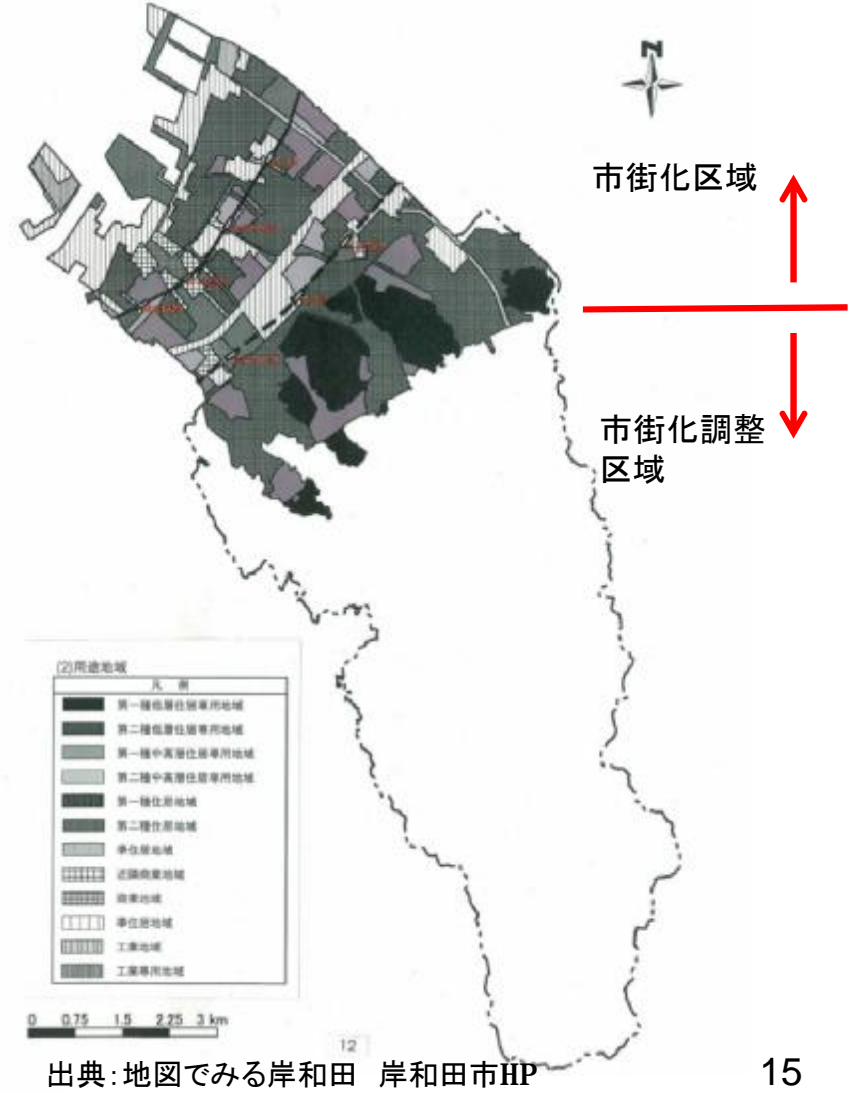
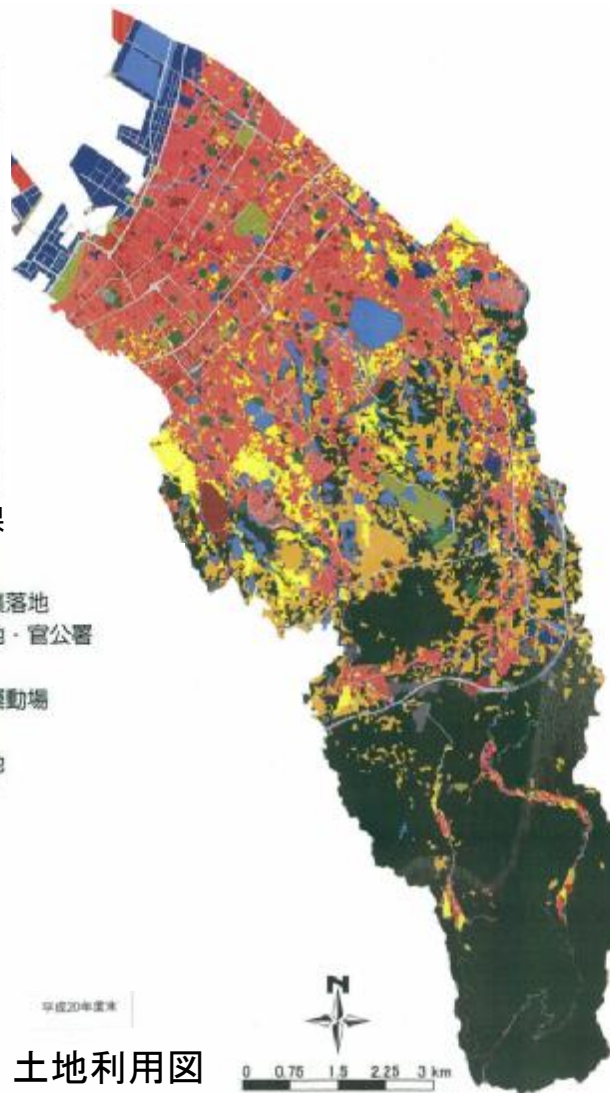
地目別面積表

地目	地積 (㎡)	(%)
宅地	17,595,783	33.7
田	6,366,520	12.2
畑	5,731,881	11.0
山林	5,306,021	10.2
原野	291,909	0.6
雑種地	4,154,092	8.0
その他	12,727,767	24.3
計	52,173,973	100.0

出典:岸和田市HP 固定資産税課



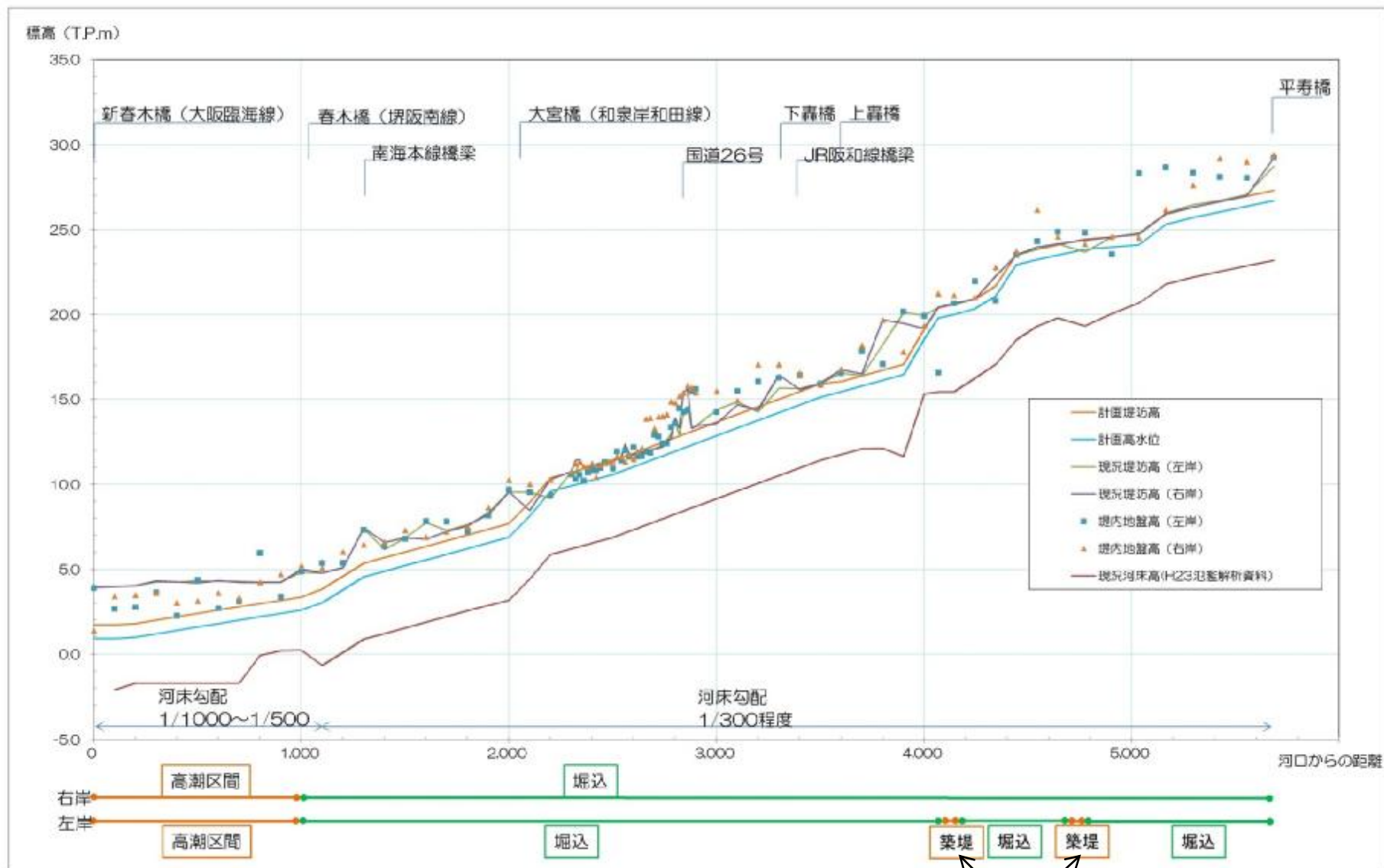
土地利用図



出典:地図でみる岸和田 岸和田市HP

1.2 流域の現状（春木川）

(5) 河川縦断図



川沿いの農地一枚のみ低い箇所あり

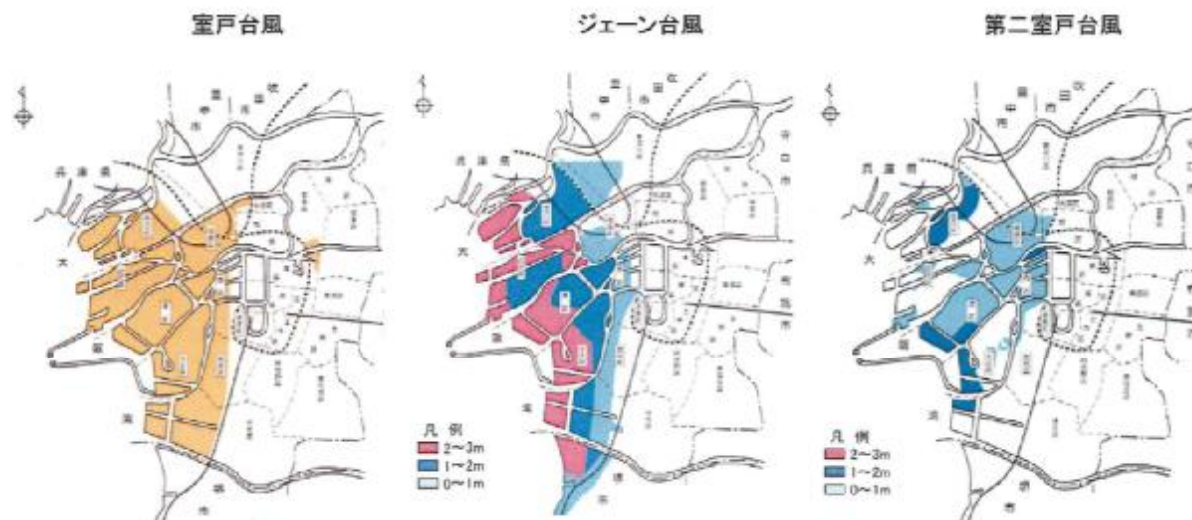
16

出典 「H23年度春木川外河川氾濫解析検討業務」資料を基に作成

2.1 治水事業の概要（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(1) 自然災害(高潮)

●戦前は室戸台風(昭和9年)、戦後はジェーン台風(昭和25年)、第二室戸台風(昭和36年)の高潮によって大きな被害を受けた。



大阪市域の被害の概要

ジェーン台風(昭和25年)

項目		被害数
建物被害	全壊・流出・半壊	46405戸
	床上浸水	記載なし
	床下浸水	記載なし
人的被害	死者・行方不明者	221人
	重軽症者	18573人

第二室戸台風(昭和36年)

項目		被害数
建物被害	全壊・流出・半壊	1726戸
	床上浸水	約51500戸
	床下浸水	約54000戸
人的被害	死者・行方不明者	6人
	重軽症者	682人

資料: 西淀川区史 平成8年3月15日発行



室戸台風 大正区 木津川上流



ジェーン台風 福島区 野田阪神付近



第二室戸台風 中之島 土佐堀川左岸

2.2 治水事業の概要（春木川）

・春木川流域では、過去の台風、豪雨により、昭和57年に15戸、平成元年に34戸、H7年に4戸の床上浸水が発生している。昭和46年から高潮対策事業に着手し、伊勢湾台風級の超大型台風に対応できる高潮堤防が平成3年に完成している。昭和56年からは河川改修事業として1/100年対策が進められている。

過去の主な水害

年度	異常気象名	最大日雨量*		最大時間雨量 *) (mm)	主な被害状況
		発生日月日	最大日雨量 (mm)		
昭和9年	室戸台風	9月29日	-	-	海岸から200m程度の地点の家屋は、大波のために海水浸水の被害があった。倒壊家屋数不明。市東部の人家および市内小学校3棟、中学校1棟倒壊。その他、郡部の工場、学校の倒壊多し。市内の家屋の屋根瓦はほとんど破損。米作に相当の被害あり。電線はほとんど切断、レールも破損。家屋の下敷きになった者多い見込み。死者4名。
昭和25年	ジェーン台風	9月3日	-	-	死者4名、行方不明者1名、負傷者600名、家屋全壊250戸、家屋半壊1185戸。
昭和27年	7月豪雨(梅雨前線)	7月7日～11日	-	-	死者3名、流失家屋5戸、全壊4戸、半壊4戸、床上浸水668戸、床下浸水2851戸、河川決壊13ヶ所、護岸崩壊34ヶ所、橋梁流失24ヶ所、山崩れ13ヶ所
昭和28年	台風13号	9月25日	-	-	全壊14戸、半壊109戸、流失2戸、床上浸水39戸、床下浸水243戸。
昭和36年	台風6号	6月24日	-	-	春木南地区では農家の納屋(27㎡)が倒壊した。また阿間河湾では山手の用水路が9m決壊し、田畑が水浸しとなった。29日には白原の蒲池(面積約20a)の堤の外側が約10mに達り決壊した。その他市内の牛滝川上流の数ヶ所で崖崩れが生じた。
昭和36年	第2室戸台風	9月16日	-	-	市内で家屋全壊110戸、半壊610戸、床上浸水2750戸、床下浸水2100戸。
昭和39年	台風20号	9月25日	-	-	市内で床上浸水630戸。
昭和42年	梅雨前線	7月7日～12日	-	-	床上浸水8戸、床下浸水843戸、護岸崩壊18ヶ所、河川被害19ヶ所、道路災害13ヶ所。
昭和47年	梅雨前線	7月12日～13日	-	-	春木南浜町、南町、磯上町、土生町等で床下浸水309戸、床上浸水1戸。
昭和54年	6月豪雨	6月29日	134	25	西之内町、富本町、野田町等で床上浸水90戸。下松町、上町を中心に床下浸水95戸。古城川が氾濫し、沿岸住民11世帯17人が市民会館に避難した。また、同川の五軒屋町付近で堤防が両岸の3ヶ所(延べ60m)にわたって破損し、水があふれた。
昭和57年	台風10号	8月1日	148	22	古城川があふれ、堺町、大手町などで床上・床下浸水約160戸。
平成7年	豪雨	7月4日	145	47	床下浸水120戸、床上浸水4戸、家屋の一部破損3戸。

*雨量は、気象庁熊取観測所のデータ

「岸和田市地域防災計画見直し等業務委託(防災アセスメント編)報告書」による



第2室戸台風 兵主神社



室戸台風
写真出典：ふるさと岸和田

治水事業の沿革

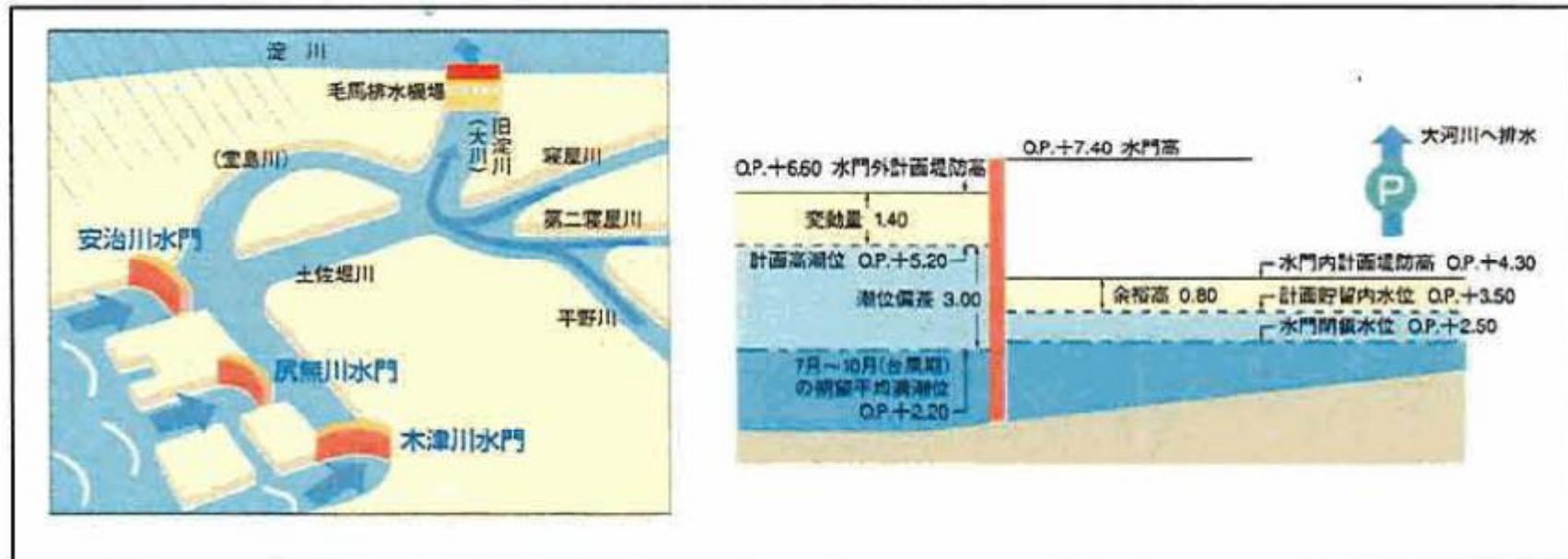
事業名	期間	範囲	状況
泉洲高潮対策事業	S46～H3	河口～春木橋 L=約1.0km	完了
河川改修事業	S56～継続中	春木橋～平寿橋 L=約4.7km	治水上 完了

3.1 既往の治水計画の概要（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(1) 高潮事業の現状（西大阪ブロック 防潮水門方式）

- 伊勢湾台風規模の超大型台風が室戸台風のコースを通過して、満潮時に来襲した場合を想定した高潮（計画高潮位O.P. +5.20m）に対して安全に対処できるように防潮施設が整備されている。
- 西大阪ブロックの防潮方式は、防潮水門方式を採用しており、高潮時には防潮水門を閉鎖して高潮の遡上を防いでいる。
- 防潮水門閉鎖時には、上流からの流入や市街地からの排水に対応するため、ジェーン台風の実績降雨（最大時間雨量19.8mm）を計画降雨として、O.P.+2.50m～O.P.+3.50m間の河道内での貯留と毛馬排水機場から淀川へ強制的に排水を行っている。
- 計画堤防高は防潮水門より下流でO.P.+6.60m、水門より上流でO.P.+4.30mとして整備が完了している。
- 水門の上流側、下流側とも、計画堤防高まで防潮堤を嵩上げできない箇所については防潮鉄扉が設置されている。

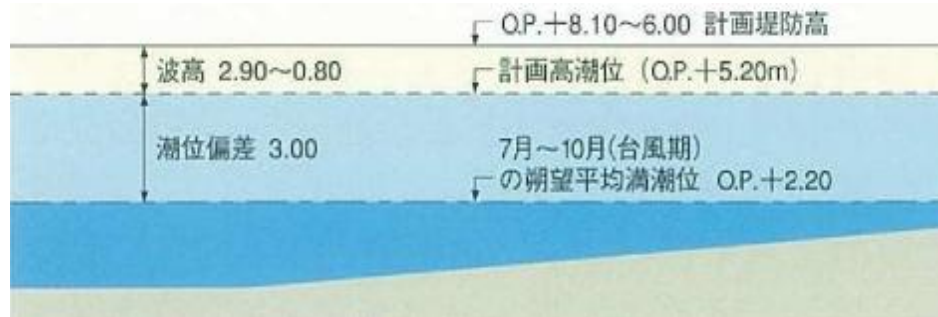
〔防潮水門方式の概念〕



3.1 既往の治水計画の概要（西大阪ブロック、神崎川下流ブロック）

(1)高潮事業の現状(神崎川下流ブロック 防潮堤方式水門方式)

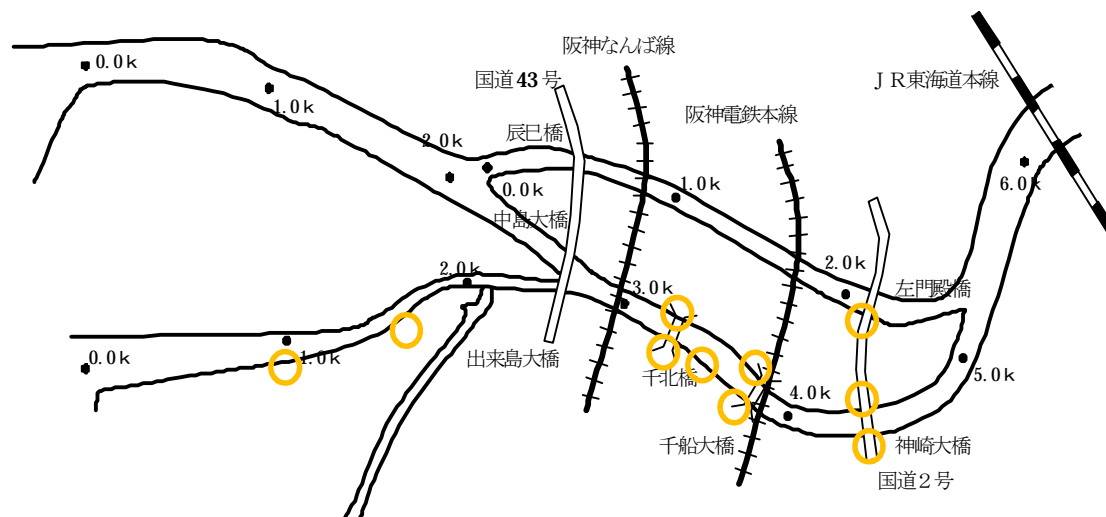
- ・堤防の高さはおおむね確保されている。
- ・嵩上げの困難な橋梁のある箇所などでは、防潮鉄扉が設置されている。



高潮計画における計画潮位



神崎大橋左岸防潮扉(国道2号鉄扉)



鉄扉・防潮扉の位置図

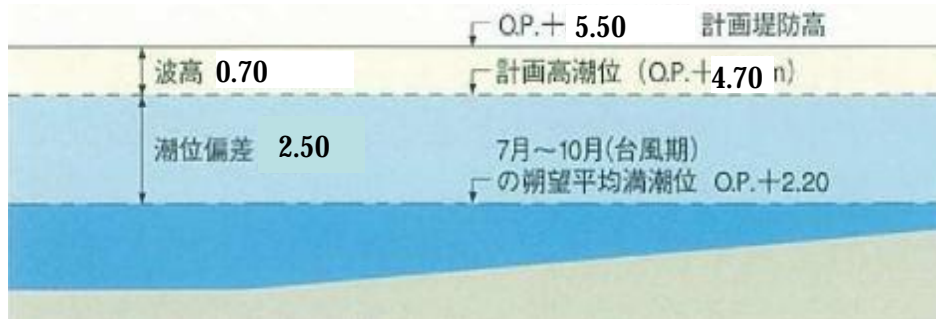


千北橋左岸防潮扉(アルミ防潮扉)

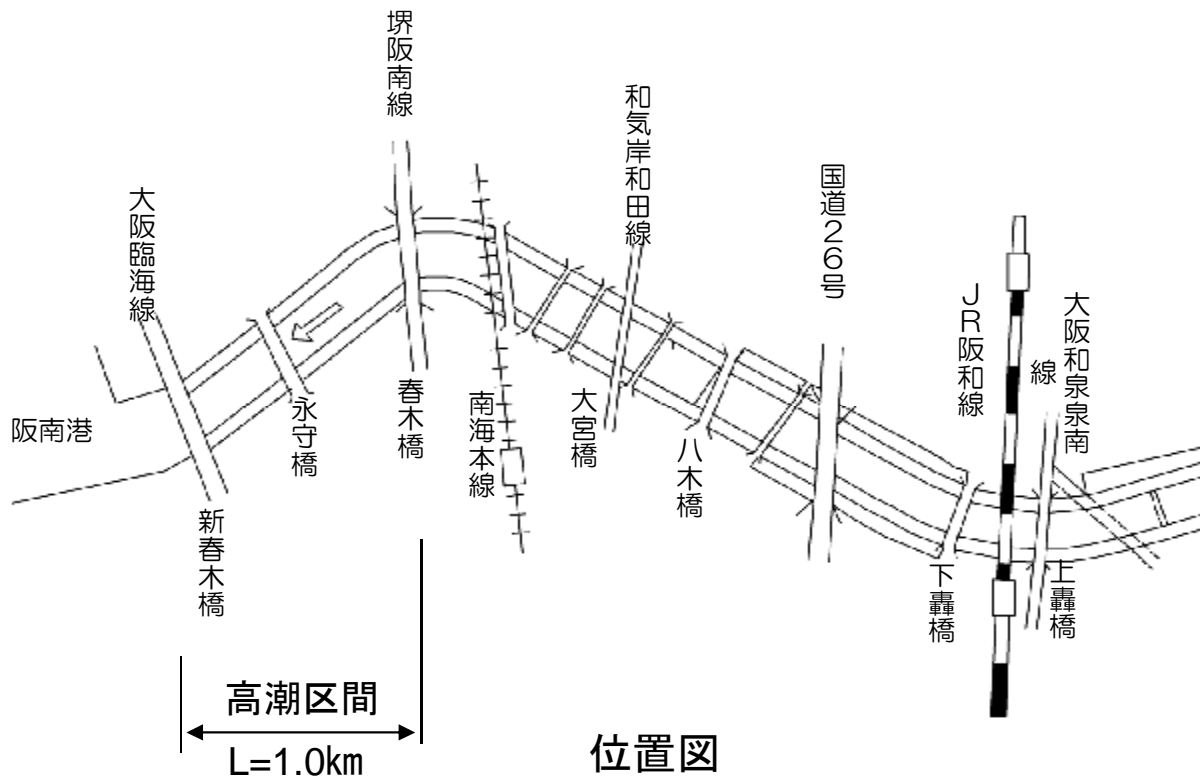
3.2 既往の治水計画の概要（春木川）

(1) 高潮事業の現状（春木川 防潮堤方式）

- ・堤防の高さは確保されている。



高潮計画における計画潮位



位置図

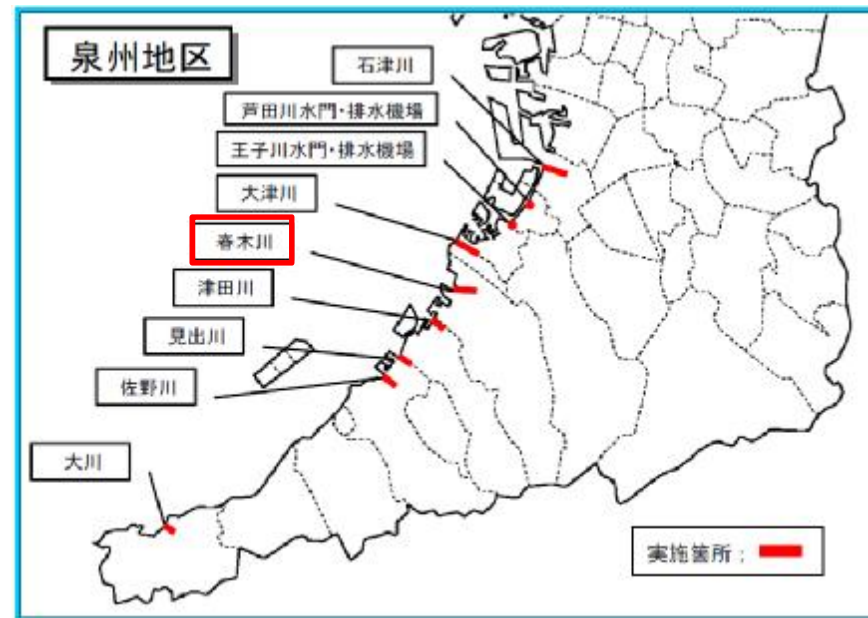
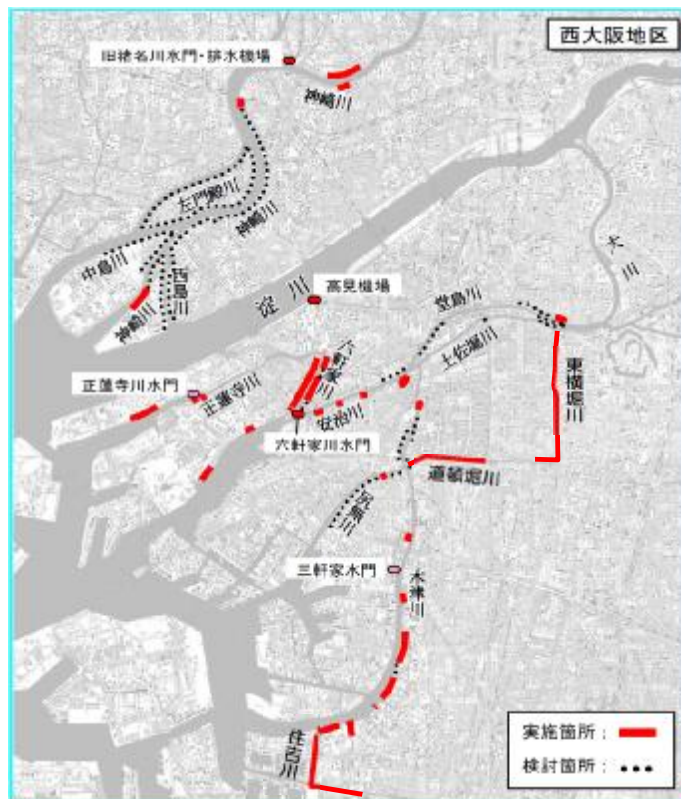


永守橋下流

3.3 津波・耐震対策の概要

(1) 津波・耐震対策事業の現状

- 河川改良工事全体計画書(H8.3)等に基づき、防潮堤の耐震補強を実施している。実施にあたっては、「大阪府都市整備部地震防災アクションプログラム(H21.3)」にて10カ年で優先的に実施する区間を定め、耐震補強を進めている。
- 東日本大震災を踏まえ、津波来襲時には三大水門等の防潮水門を閉鎖することとし、水門操作の信頼性向上のため、遠隔操作化等を実施している。
- また、南海トラフ巨大地震で想定される地震・津波による河川構造物の照査を実施しており、防潮堤については、対策箇所の重点化・優先順位付けをおこなっている。



資料:大阪府都市整備部 地震防災アクションプログラム 平成21年3月

3.3 津波・高潮対策の概要 津波浸水想定結果（平成25年8月8日）

◆津波浸水想定結果

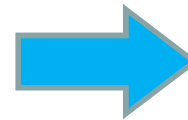
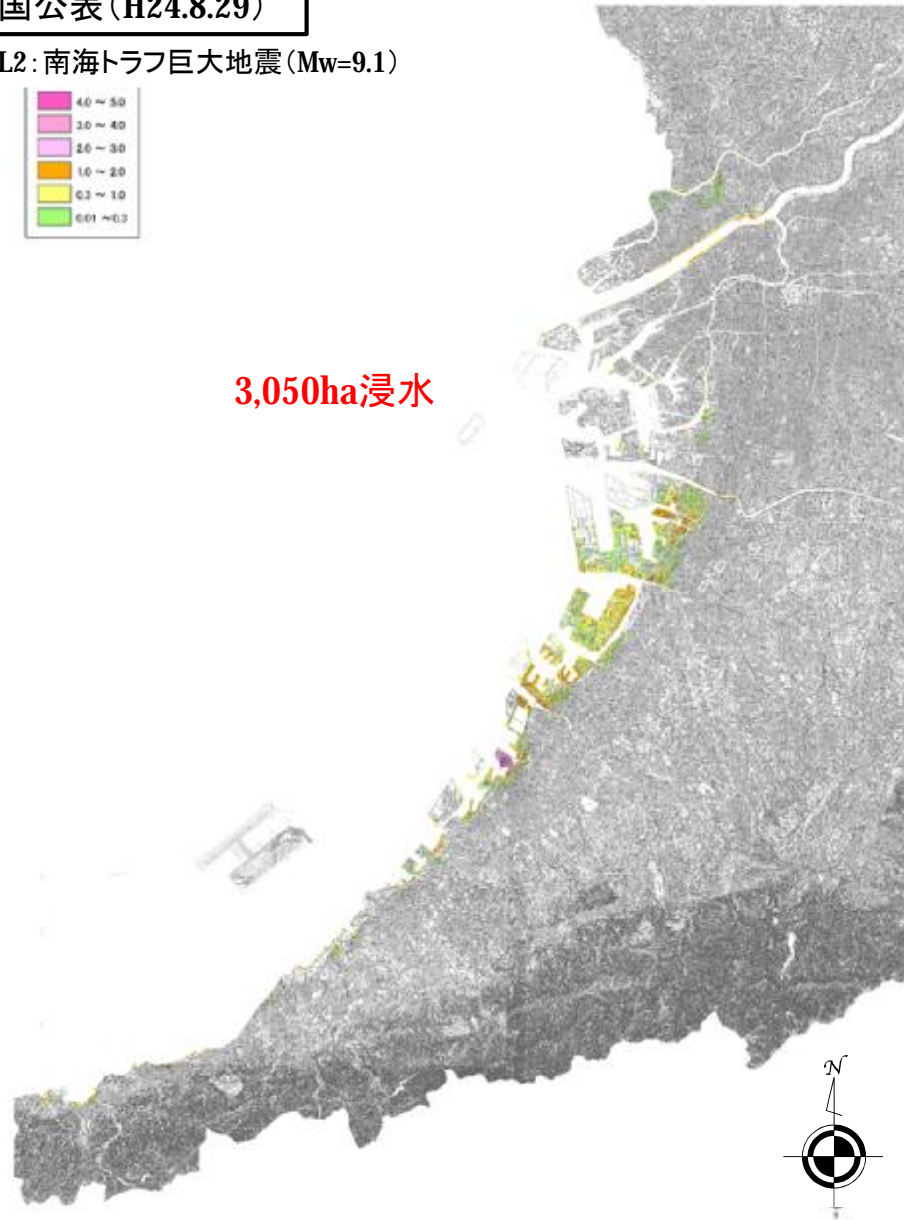
・「液状化による防潮堤の沈下」、「水門・鉄扉は開放状態」を考慮し津波浸水想定を行えば約11,000haが浸水

国公表（H24.8.29）

L2：南海トラフ巨大地震（Mw=9.1）



3,050ha浸水

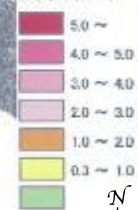


【異なる条件】
防潮堤沈下
（液状化等）

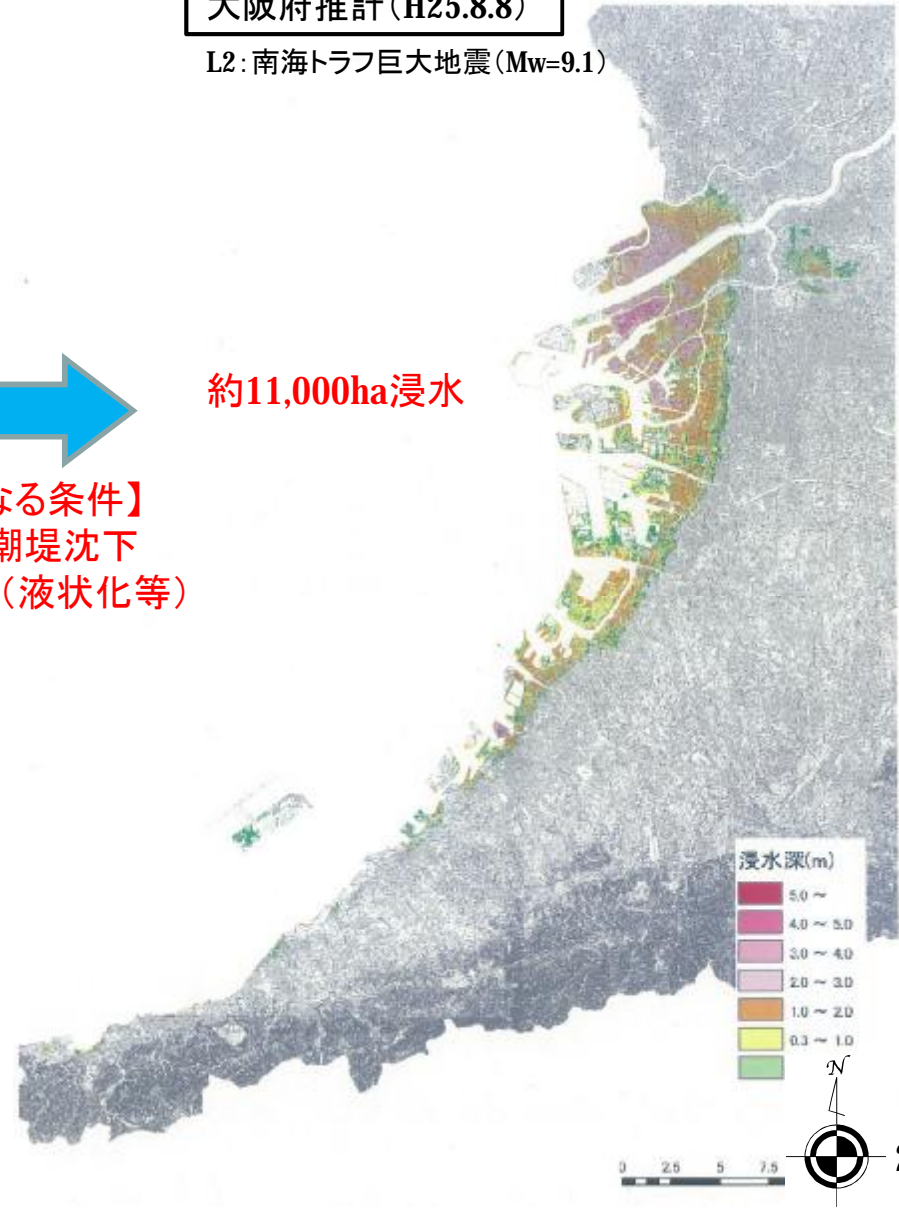
大阪府推計（H25.8.8）

L2：南海トラフ巨大地震（Mw=9.1）

浸水深(m)



約11,000ha浸水



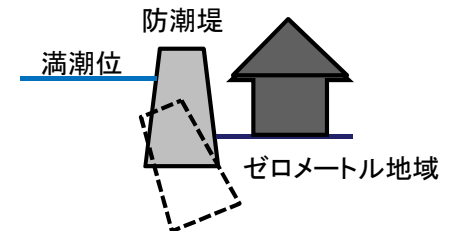
3.3 津波・高潮対策の概要 基本方針について（堤防・防潮堤）

《現 状》

◆既存防潮施設の現状

- ・大阪府では、これまで「第一線防潮堤（水門含む）」にて高潮による被害を防御
- ・高潮対策により整備した防潮堤、水門の「高さ」は、南海トラフ巨大地震の津波に対しても概ね確保
- ・大阪市域のゼロメートル地帯では、津波対策と共に直下型地震対策（日々の干満対策）として防潮堤の耐震補強を実施中

防潮堤の沈下による満潮時の浸水イメージ



◆津波浸水想定結果

- ・「液状化による防潮堤の沈下」、「水門・鉄扉は開放状態」を考慮し津波浸水想定を行えば約11,000haが浸水

《評価と課題》

◆既存施設の評価

- ・阪神・淡路大震災以降等に耐震補強した防潮堤・水門は、南海トラフ巨大地震に対しても一定の効果を発揮
- ・水門を閉鎖すると津波による内陸部の浸水被害は大幅に軽減
- ・三大水門は高潮対策として整備しており、津波時に閉鎖した場合は損傷するため、別途、新たな津波対応水門に係る調査・検討が必要

津波時に閉鎖される三大水門



◆南海トラフ巨大地震の検証による新たな知見

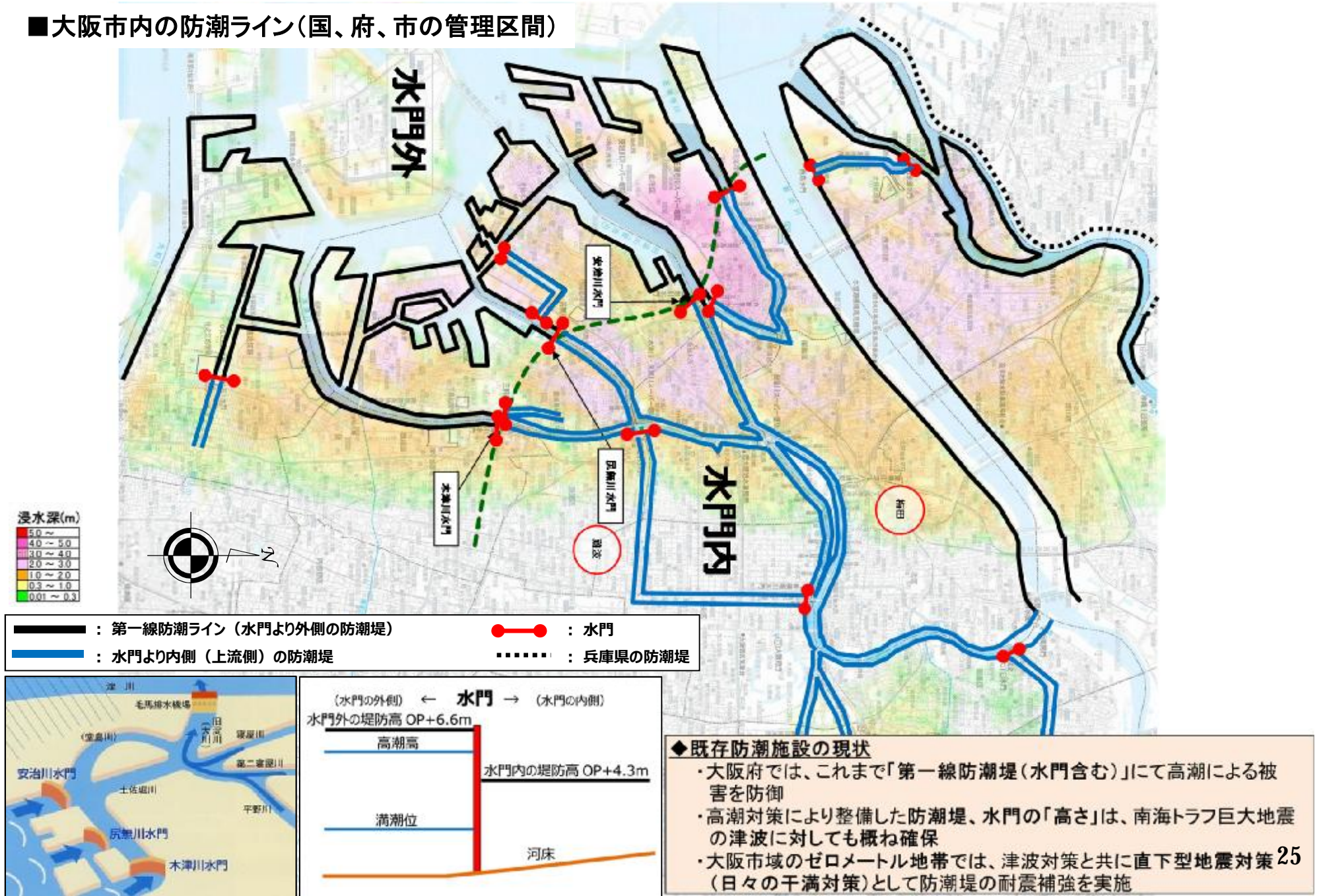
- ・新たに指摘された液状化により、防潮堤が変位（沈下等）し高さを維持できないことが判明

大阪湾では高潮対策で整備した防潮堤が一定の高さを確保。
このストックを活用し対策を重点実施することにより、人口・産業が集積する「関西・大阪」の都市機能を確保。

基本方針：既存防潮堤の機能保持（液状化対策）により津波等の浸水被害を軽減

3.3 津波・高潮対策の概要 大阪の高潮防御方式について

■大阪市内の防潮ライン(国、府、市の管理区間)



3.3 津波・高潮対策の概要 防潮堤等の現況堤防高（広域地盤沈降のみ考慮）平面図



- ◆既存防潮施設の現状
- ・大阪府では、これまで「第一線防潮堤（水門含む）」にて高潮による被害を防御
 - ・高潮対策により整備した防潮堤、水門の「高さ」は、南海トラフ巨大地震の津波に対しても概ね確保
 - ・大阪市域のゼロメートル地帯では、津波対策と共に直下型地震対策（日々の干満対策）として防潮堤の耐震補強を実施

- 凡 例
- 「期望平均満潮位+L1津波高」以下
 - 「期望平均満潮位+L2津波高」以下

【現況堤防高（広域地盤沈降のみ考慮）】

3.3 津波・高潮対策の概要 防潮堤等の現況堤防高（広域地盤沈降のみ考慮）平面図

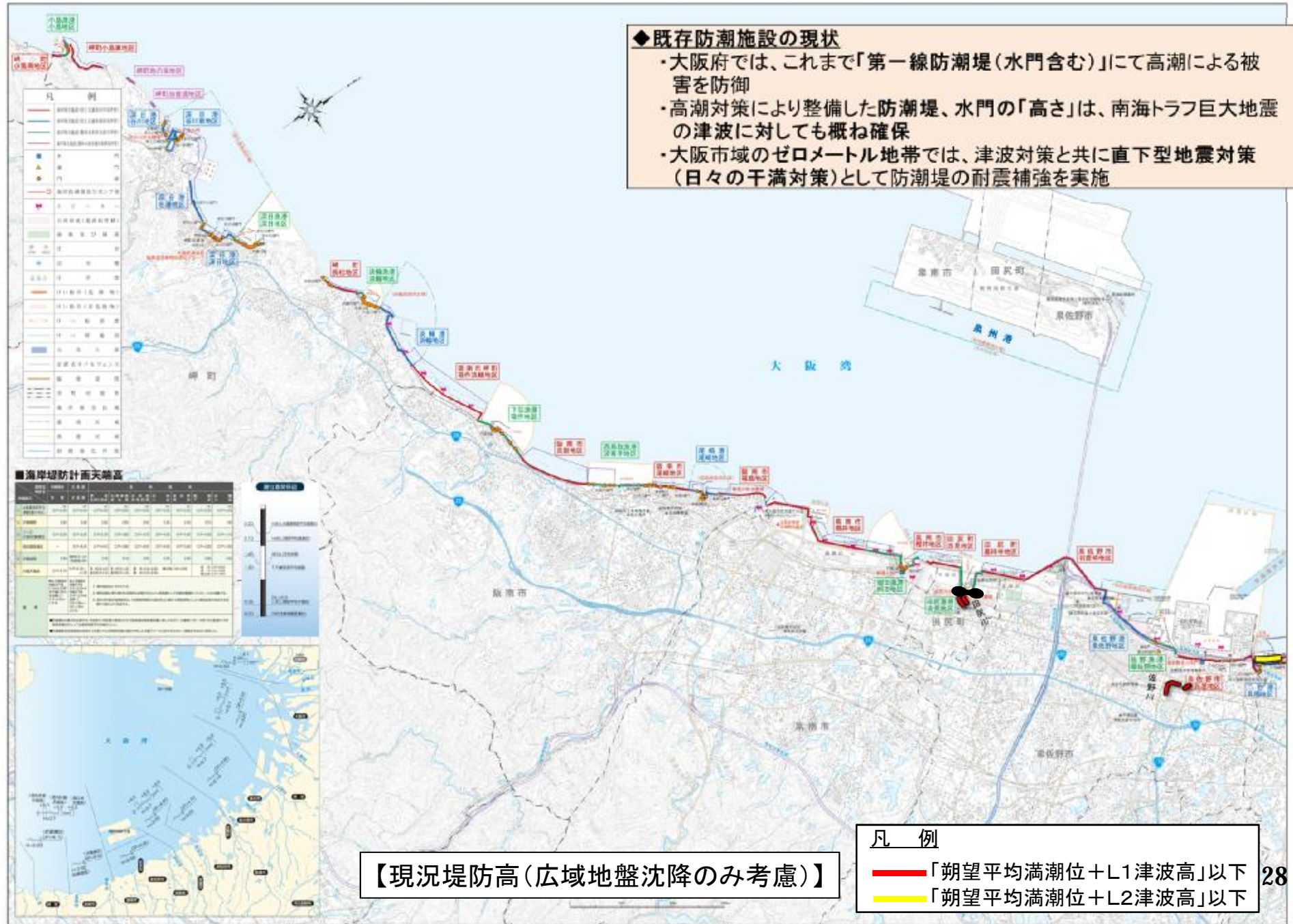
◆既存防潮施設の現状

- ・大阪府では、これまで「第一線防潮堤（水門含む）」にて高潮による被害を防御
- ・高潮対策により整備した防潮堤、水門の「高さ」は、南海トラフ巨大地震の津波に対しても概ね確保
- ・大阪市域のゼロメートル地帯では、津波対策と共に直下型地震対策（日々の干満対策）として防潮堤の耐震補強を実施

大阪府泉州海岸管理図



3.3 津波・高潮対策の概要 防潮堤等の現況堤防高（広域地盤沈降のみ考慮）平面図



3.3 津波・高潮対策の概要 津波浸水想定結果（平成25年8月8日）

◆津波浸水想定結果

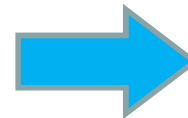
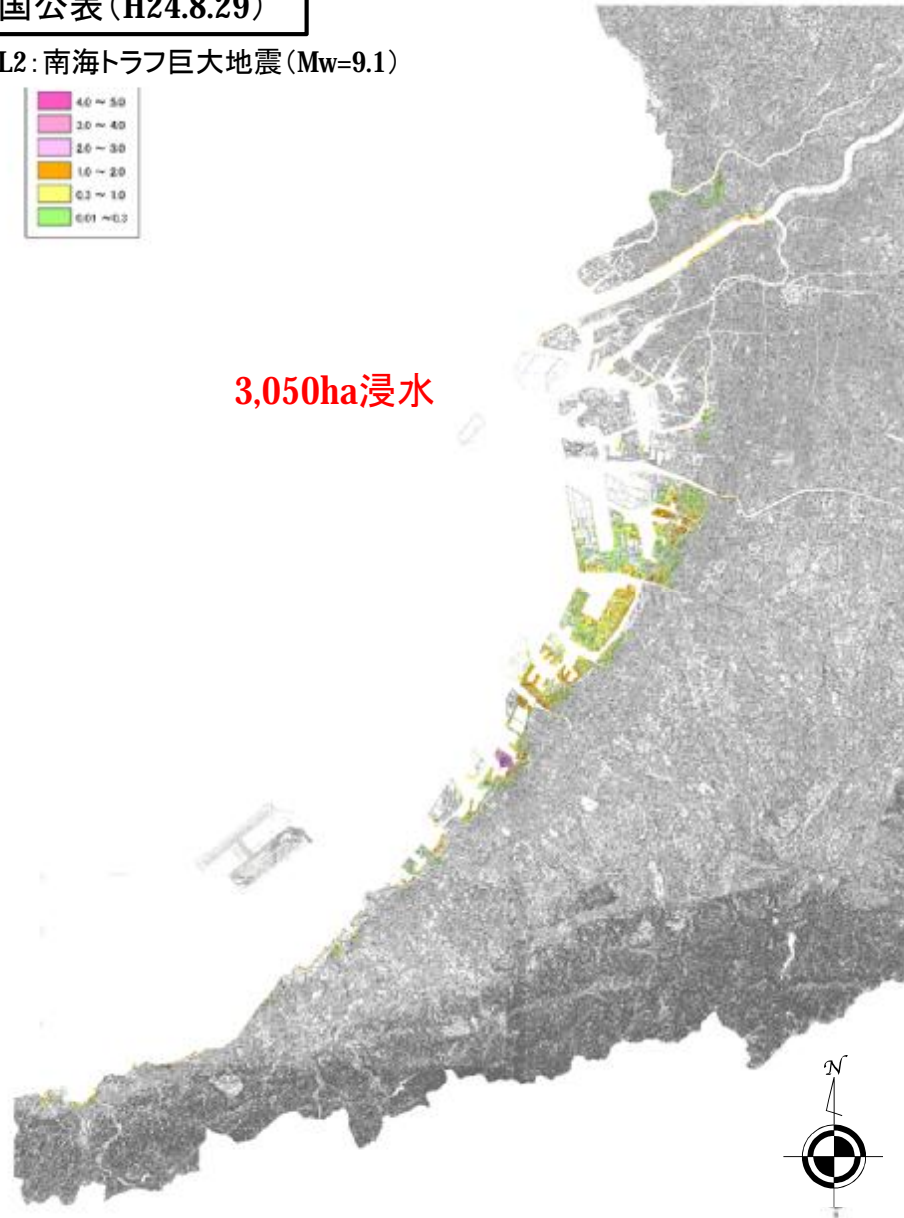
・「液状化による防潮堤の沈下」、「水門・鉄扉は開放状態」を考慮し津波浸水想定を行えば約11,000haが浸水

国公表（H24.8.29）

L2：南海トラフ巨大地震（Mw=9.1）



3,050ha浸水

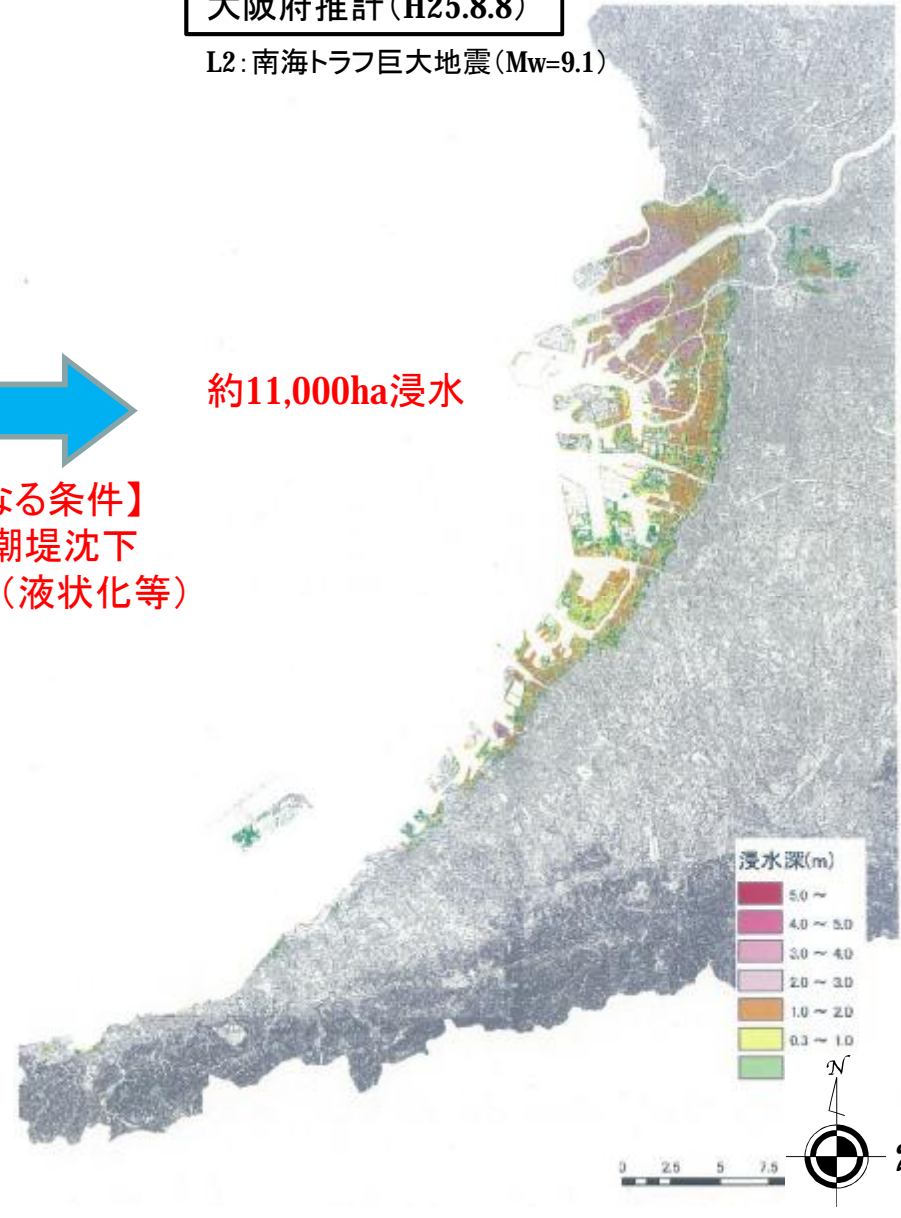


【異なる条件】
防潮堤沈下
（液状化等）

大阪府推計（H25.8.8）

L2：南海トラフ巨大地震（Mw=9.1）

約11,000ha浸水



3.3 津波・高潮対策の概要 津波による被害

【大阪府における被害】

	条件・定義	単位	南海トラフ巨大地震		東南海・南海地震(H19.3)
			内閣府公表	大阪府今回推計	
建物被害	全壊	棟	8,000	31,135	-
	半壊	棟	-	116,925	-
死者数	夏・12時（堤防沈下等）	人	-	15,697	-
	冬・18時（堤防沈下等）	人	-	18,976	-
	夏・12時（津波）	人	4,200	113,452	-
	冬・18時（津波）	人	4,500	113,991	-
負傷者数	夏・12時（堤防沈下等）	人	-	232	-
	冬・18時（堤防沈下等）	人	-	279	-
	夏・12時（津波）	人	1,800	57,743	-
	冬・18時（津波）	人	1,900	63,666	-
負傷者のうち重傷者数	夏・12時（堤防沈下等）	人	-	79	-
	冬・18時（堤防沈下等）	人	-	95	-
	夏・12時（津波）	人	-	19,633	-
	冬・18時（津波）	人	-	21,646	-
参 考	浸水域における全建物棟数	棟	-	239,026	-
	浸水域における夜間人口	人	-	1,158,538	-
	浸水域における昼間人口	人	-	1,448,767	-

3.3 津波・高潮対策の概要 津波による人的被害

【避難の迅速化による被害の軽減】

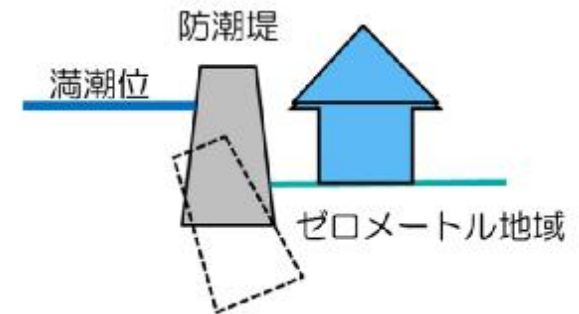
	条件・定義	単位	南海トラフ巨大地震		東南海・南海地震(H19.3)
			内閣府公表	大阪府今回推計	
死者数 (早期避難率低)	夏・12時(堤防沈下等)	人	-	15,697	-
	冬・18時(堤防沈下等)	人	-	18,976	-
	夏・12時(津波)	人	4,200	113,452	-
	冬・18時(津波)	人	4,500	113,991	-
死者数 (避難迅速化)	夏・12時(堤防沈下等)	人	-	5,277	-
	冬・18時(堤防沈下等)	人	-	7,882	-
	夏・12時(津波)	人	-	0	-
	冬・18時(津波)	人	-	0	-
負傷者数 (早期避難率低)	夏・12時(堤防沈下等)	人	-	232	-
	冬・18時(堤防沈下等)	人	-	279	-
	夏・12時(津波)	人	1,800	57,743	-
	冬・18時(津波)	人	1,900	63,666	-
負傷者数 (避難迅速化)	夏・12時(堤防沈下等)	人	-	82	-
	冬・18時(堤防沈下等)	人	-	117	-
	夏・12時(津波)	人	-	0	-
	冬・18時(津波)	人	-	0	-
負傷者のうち重傷者数 (早期避難率低)	夏・12時(堤防沈下等)	人	-	79	-
	冬・18時(堤防沈下等)	人	-	95	-
	夏・12時(津波)	人	-	19,633	-
	冬・18時(津波)	人	-	21,646	-
負傷者のうち重傷者数 (避難迅速化)	夏・12時(堤防沈下等)	人	-	28	-
	冬・18時(堤防沈下等)	人	-	40	-
	夏・12時(津波)	人	-	0	-
	冬・18時(津波)	人	-	0	-

3.3 津波・高潮対策の概要 津波による人的被害

【津波が到達するまでに、防潮堤の沈下等により浸水する区域】



防潮堤の沈下による
満潮時の浸水イメージ

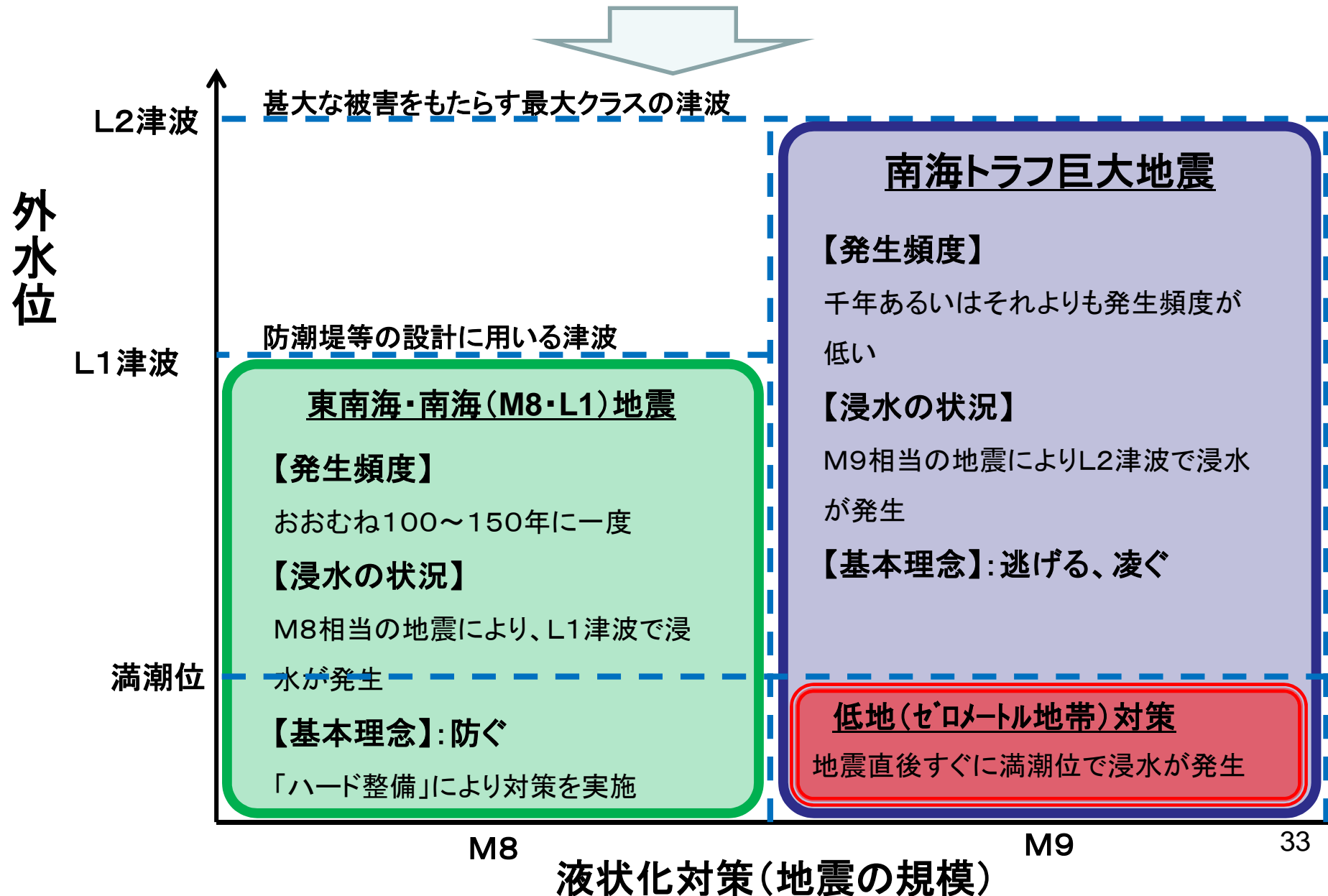


地震発生後10分以内に、河川からの溢水により浸水(30cm以上)する区域(朔望平均満潮時)

津波による浸水が30cmになるまでの間に、河川からの溢水により浸水(30cm以上)する区域(朔望平均満潮時)

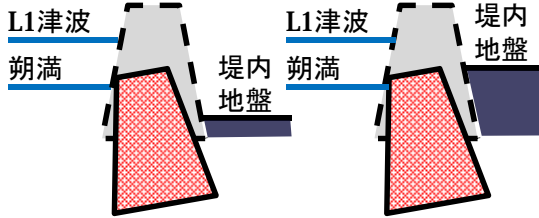

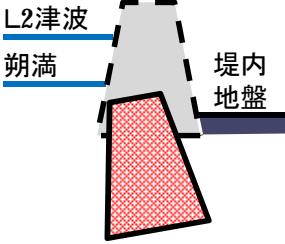

3.3 津波・高潮対策の概要 対策の重点化の考え方について（堤防・防潮堤）

基本方針：既存防潮堤の機能保持（液状化対策）により津波等の浸水被害を軽減



3.3 津波・高潮対策の概要 対策の重点化の考え方について（堤防・防潮堤）

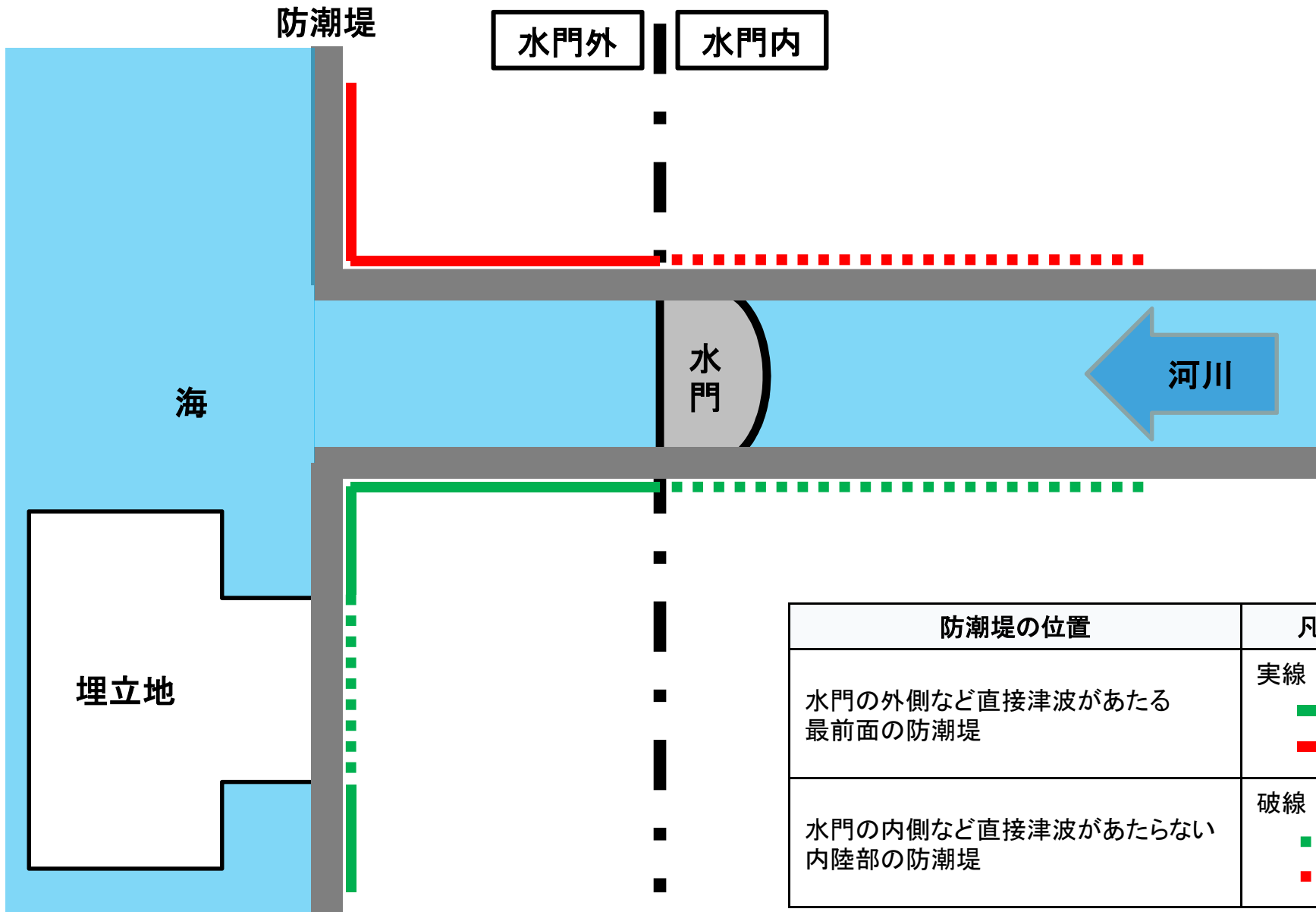
被害状況のケース分け

地震規模	被害の状況		区間
M8	L1津波で浸水		
M9	地震後すぐに満潮位で浸水 (大阪市内)		

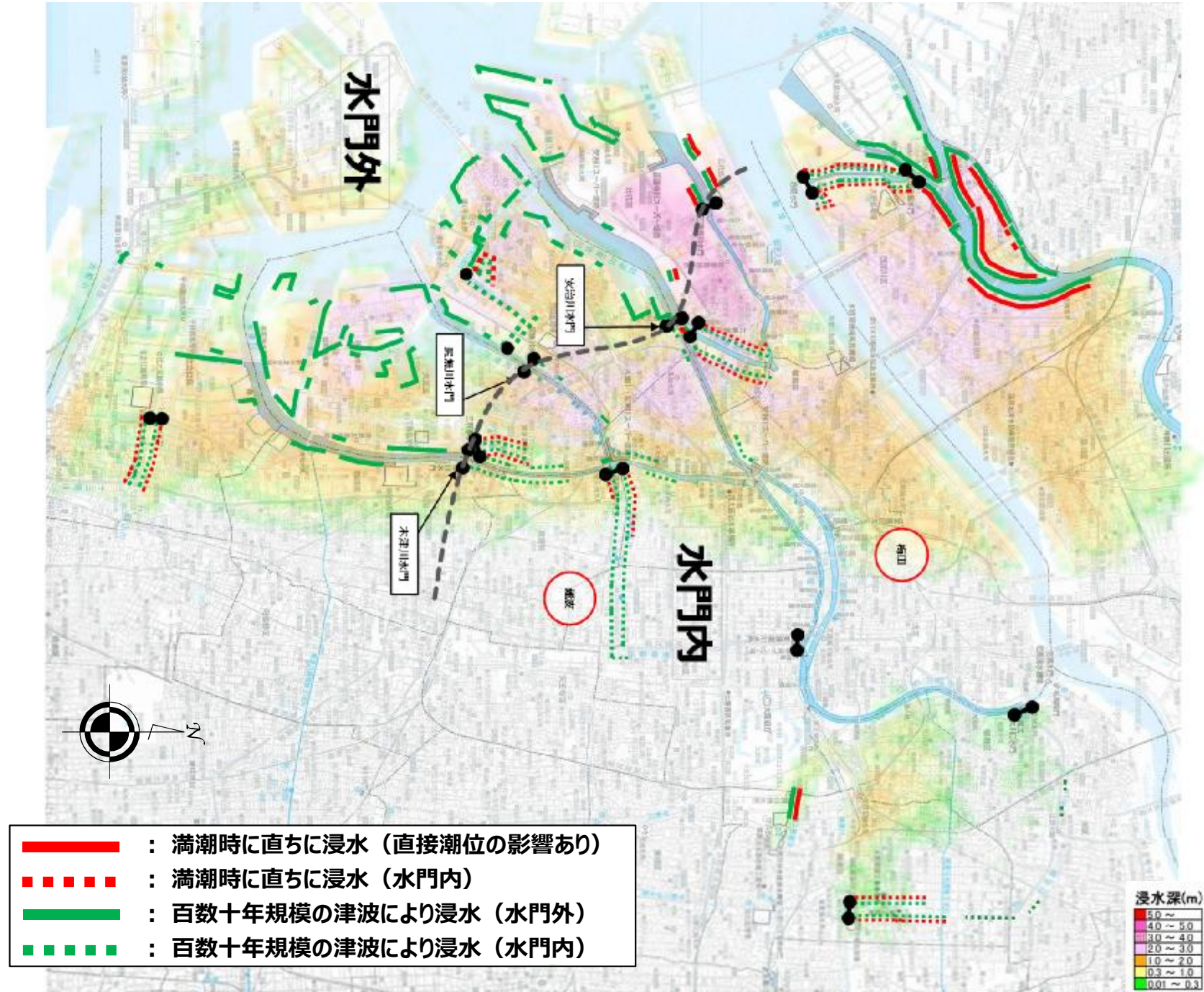
※堤内地盤高が照査外水位より高い区間は除外

3.3 津波・高潮対策の概要 対策の重点化の考え方について（堤防・防潮堤）

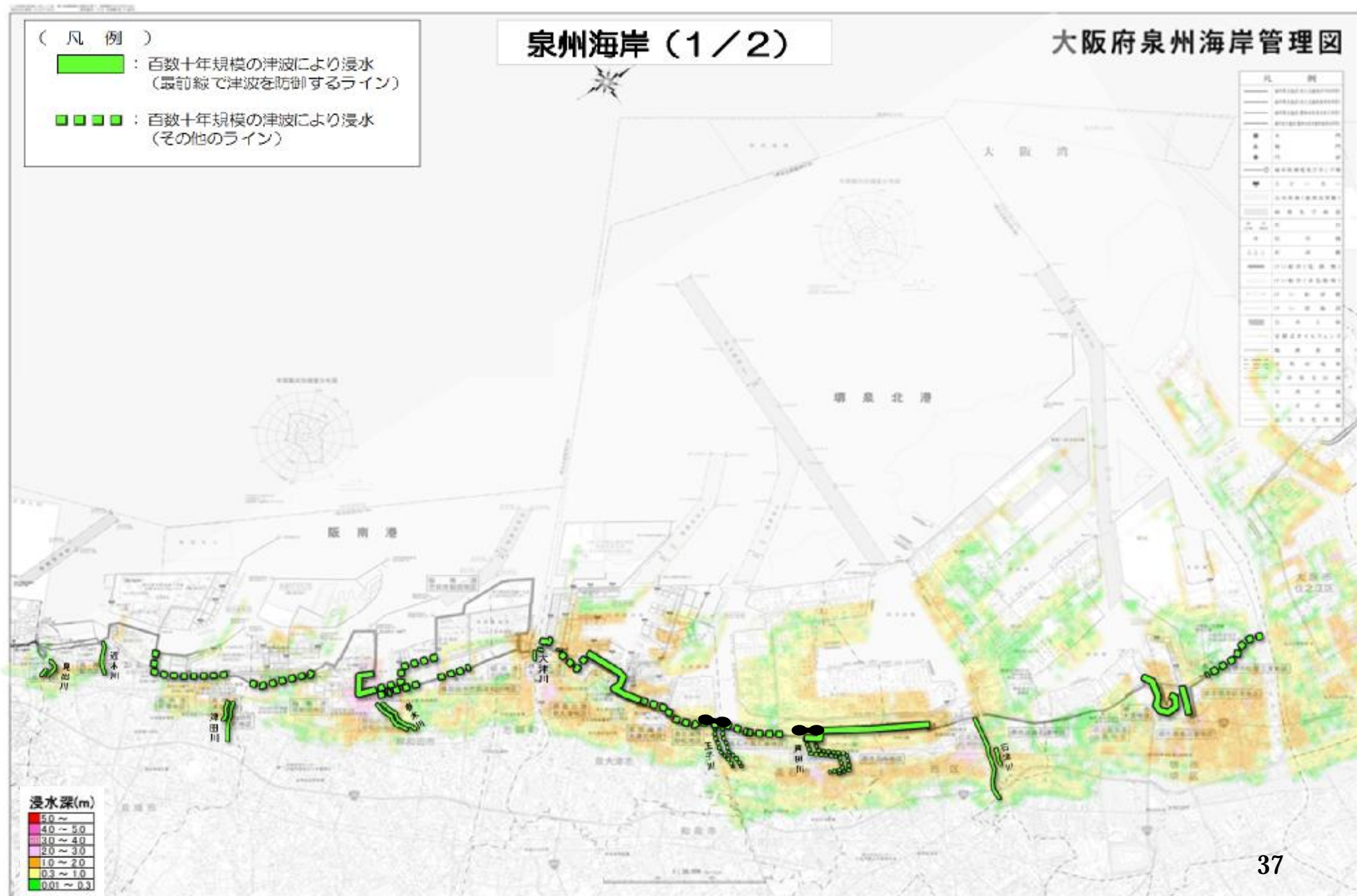
防潮堤の位置について



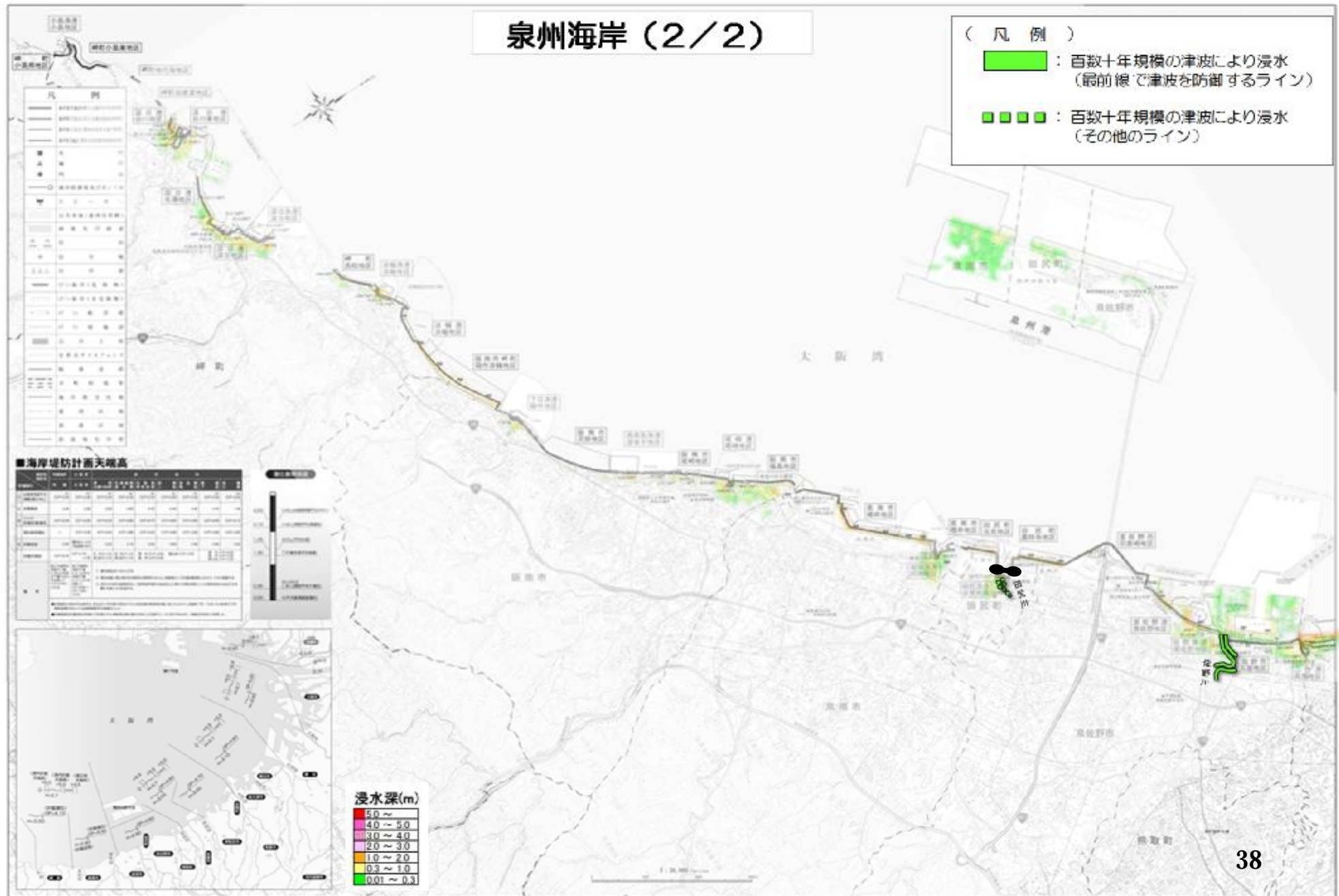
3.3 津波・高潮対策の概要 防潮堤等の点検結果平面図



3.3 津波・高潮対策の概要 防潮堤等の点検結果平面図



3.3 津波・高潮対策の概要 防潮堤等の点検結果平面図



《優先順位の考え方(案)》

- ☐ 津波を最前線で直接防御する「第一線防潮ライン(水門より外側等)」の防潮堤の液状化対策を最優先で実施。
 - ☐ とりわけ、この第一線防潮ラインの防潮堤の内、地震後、防潮堤が液状化により変位(沈下等)し、地震直後から満潮位で浸水が始まる箇所については、避難が間に合わないため、対策を早期に完成させる。
 - ☐ 水門の内側等にある防潮堤の液状化対策についても、第一線防潮ラインの液状化対策に引き続き、順次、対策を実施。
 - ☐ ただし、水門の内側等であっても、地震直後から満潮位で浸水が始まる箇所については、第一線防潮ラインの対策箇所と同様、対策を早期に完了させる。
- ※対策の実施に当たっては、現場条件等を踏まえた詳細な検討を行う必要がある。